

準絶滅危惧 (NT)

ハチ目ミツバチ科

シロスジコシブトハナバチ

Amegilla quadrifasciata (Villers, 1789)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):皆木宏明



■ 選定理由

準海浜性のハナバチで、国内では採集個体数が少ない。

■ 概要

体長はメスが15-17mm、オスが13-14mmで、がっしりした体躯をもつ。腹部の1~4節背板後縁に白毛帯がある。名前はこの特徴に由来する。稀種のため、生態に関する知見は皆無に近い。年1化性で、活動期間は7月下旬から9月中旬までである。典型的な広食性で、海浜ではハマゴウの花でしばしば採集される。営巣地は、海浜に流れ込む大小河川脇の切り通しの砂壁と推測される。内陸部でも、営巣地は砂壁であろう。国内では、本州・四国・九州から分布記録がある。国外では、旧大陸にも産する。

● 参考文献

前田泰生・北村憲二・松本圭司・宮永龍一 (2004) 海浜における送粉生態系の保全に関する研究. ホシザキグリーン財団研究報告, (7): 275-303.
皆木宏明・前田泰生・北村憲二 (2000) 海浜における送粉生態系の保全に関する研究. 1. 大社砂丘における訪花昆虫の種類とそれらの季節消長. ホシザキグリーン財団研究報告, (4): 139-160.
宮永龍一・清水加那・井上くるみ (2022) 海浜性植物ハマゴウの訪花ハナバチ相と周辺環境との関係について. 中国昆虫, (35): 1-9.

■ 県内での生息地域・生息環境

大社砂丘(出雲市)のほか島根県内の数カ所の砂丘、ほかにも三瓶山でも局所的に採集されている。

■ 存続を脅かす原因

特異な環境に営巣するので、このような環境の喪失は生息を不可にする。

(執筆者: 前田 泰生)

情報不足 (DD)

トンボ目サナエトンボ科

オグマサナエ

Trigomphus ogumai Asahina, 1949

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧(NT)

撮影者(提供者):北山拓



■ 選定理由

県中西部において産地が局限される。かつて広く分布していた県東部の平野部においても産地・個体数が減少傾向である。

■ 概要

全長46-52mmのやや小型のサナエトンボ。県内に生息するコサナ工属3種の中では最も大きく、また幼虫は腹部先端の第10節がきわめて長く特徴的である。羽化は4月中旬ごろから始まり、羽化後は周辺の雑木林などへ分散する。成熟した雄は水辺に静止して縄張りを張る。産卵は雌単独で、水際の草地の上をホバリングし、腹端を振りながら卵をばらまく。

● 参考文献

北山 拓・林 成多・大浜祥治 (2018) 島根県に生息するトンボ目の目録と生態写真集. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, 22, 1-116.
宮本昭子 (2024) 益田市と近隣におけるコサナ工属の記録. すかしば, 71:73-75.
大浜祥治・祖田 周・淀江賢一郎・三島秀夫 (2003) 島根県のトンボ相Ⅴ. ホシザキグリーン財団研究報告, 6:215-290.

■ 県内での生息地域・生息環境

平地~丘陵地の開放的でやや水深の深い池沼に生息するが、内陸部ではまれとなる。県東部では比較的普通に見られるが、中西部では産地が局限される。隠岐諸島では未記録。

■ 存続を脅かす原因

開発などによる生息池沼の埋め立てや、休憩場所となる周辺雑木林の伐採など。

(執筆者: 大浜 祥治)

情報不足 (DD)

トンボ目サナエトンボ科

コサナエ

Trigomphus melampus (Selys, 1869)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	—	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 大浜 祥治

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

分布西限に近い県中西部では産地が局限される。また隠岐諸島では島の男池周辺のみから記録されているが、近年生息環境が悪化しており、本種隠岐個体群の存続が危ぶまれている。

概要

全長40—46mmの小型のサナエトンボ。県内には、コサナエ属4種のうち、コサナエ、オグマサナエ、タベサナエの3種が分布するが、これら3種はお互いに酷似し、オスでは尾部上付属器、メスでは産卵弁の形状で識別できる。暖かい年には4月上旬から羽化が始まり5月が最盛期となる。高標高の地域では7月まで成虫が見られる。日本特産種。

参考文献

宮本詔子 (2024) 益田市と近隣におけるコサナエ属の記録。すかしば, 71:73-75.
大浜祥治 (1986) 匹見・益田周辺におけるトンボの記録。すかしば, 26:1-4.
大浜祥治 (2002) 隠岐諸島のトンボ相 補遺。すかしば, 50:1-36.
大浜祥治・祖田 周・淀江賢一郎・三島秀夫 (2003) 島根県のトンボ相Ⅴ。ホシザキグリーン財団研究報告, 6:215-290.

県内での生息地域・生息環境

県東部では、平野部から山間地まで比較的普通に見られるが、県中部・西部や隠岐(島後)では産地が局限される。大きなため池から湿地的環境まで生息するが、休息場所となる背後林の存在が必要。

存続を脅かす原因

ため池改修等による生息池沼の植生環境等の破壊。休息場所となる雑木林の伐採。

(執筆: 大浜 祥治)

情報不足 (DD)

トンボ目サナエトンボ科

ホンサナエ

Shaogomphus postocularis (Selys, 1869)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 北山 拓

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

全国的に減少しており、特に近年、県内でも生息地および個体数の減少が顕著である。

概要

全長49—55mm。河川中・下流域や湖を中心に生息する。中型のサナエトンボで、太く短い独特な体形であることから見分けは容易。幼虫は砂泥底の流水域で生息し、4月下旬に羽化が始まる。羽化後、未成熟個体は周辺の河畔林などで過ごす。5月中旬には川岸の石や砂の上で静止し、縄張りを張る成熟したオスが見られる。メスは岸辺に静止して腹端に卵塊を作った後、水面上に飛び立ち、打水産卵する。

参考文献

樋野耕一 (2018) 2017年に記録した出雲地方のトンボ。すかしば, (65): 5-10.
北山 拓・林 成多・大浜祥治 (2018) 島根県に生息するトンボ目の目録と生態写真集。ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (22), 1-116
松本和雄・大浜祥治 (1999) 島根県宍道湖産ホンサナエ幼虫の背棘・側棘数について。すかしば, (47): 23-26.
大浜祥治・祖田 周・淀江賢一郎・三島秀夫 (2003) 島根県のトンボ相Ⅴ。ホシザキグリーン財団研究報告, (6): 215-290.

県内での生息地域・生息環境

県内での記録は、東部に比較的多く、中・西部では少ない。斐伊川や神戸川、伯太川など比較的流域の大きな河川中・下流域あるいは、その支流河川で見られる。隠岐諸島での記録はない。

存続を脅かす原因

河川改修等による河川環境の変化。未熟期間を過ごす河川周辺の林の消失。農業等による水質の汚染。

(執筆: 樋野 耕一)

情報不足 (DD)

ガロアムシ目ガロアムシ科

ガロアムシ類

Grylloblattidae spp.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 白石泰志

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

これまでに数例の報告があるが、個体数や生態等の詳しい把握は十分でない。

概要

日本産種の体長は、15—25mm程度のもが多い。翅を完全に欠く。成虫では黄茶色から赤茶色であるものが多く、付節の各小節に褥盤が発達する。

近年、北海道産の種において新属が設立されるなど、分類学的な研究は十分にまとめられていない。

参考文献

近木英哉 (1980) 島根県のガロアムシ。すかしば, (14): 1-2.
小林和由 (2022) ガロアムシ科幼虫の採集記録。すかしば, (69): 44-45.
町田龍一郎監修・日本直翅学会編 (2016) 日本産直翅類標準図鑑, 384pp, 学研プラス, 東京.
Nakahama, N., Yamasaki, T., Komazawa, M., and Nakano, T. (2023) Integrative approach clarifies the distinct taxonomic account of grylloblattids endemic to Hokkaido, Japan, with a description of two new species (Insecta, Grylloblattodea). Zoologischer Anzeiger, 302: 17-27.
淀江賢一郎 (1984) ガロアムシの新産地。すかしば, (22): 19.

県内での生息地域・生息環境

中国山地脊梁部から標高200m以下の山域にかけて分布が見られ、湿った石や倒木の下あるいは礫間から発見されている。過去には、ガロアムシ *Galloisiana nipponensis* としての記録もあるが、近年の報告では成虫が得られていないため、種の同定には至っていない。また、真冬から早春にかけての時期は、地表近くから発見されており、寒冷な時期には低標高地であっても浅い土中にいるようである。一方、暑い時期には地中深くにいるものと思われる。

存続を脅かす原因

林床の冷涼湿潤な環境で見られることから、過度の森林伐採等による乾燥化、高温化。

(執筆: 小林 和由)

情報不足 (DD)

ハサミムシ目ハサミムシ科

インハサミムシ

Anisolabis seirokui Nishikawa, 2008

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

自然度の高い磯浜海岸に生息するハサミムシで、県内での生息地は限られている。

概要

体長13-38mm前後。背面は黒から赤褐色まで変異がある。また腹部先端のハサミも曲がったものから直線的なものまで変異がある。同所的にハサミムシ(ハマベハサミムシ)が生息しており、よく似ているが、大型で背面が赤褐色の個体は本種である可能性が高い。国内では本州、四国、九州、南西諸島、国外では朝鮮半島に分布する。

参考文献

林 成多 (2015) 島根県の海岸に生息する昆虫。ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (14): 1-120.
林 成多・門脇久志・松田隆嗣・深谷 治・近見芳恵 (2013) 隠岐諸島における昆虫類分布調査 (2009-2012年調査のまとめ)。ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (8): 1-73.
端山 武 (2010) 島根県出雲市坂浦海岸からのインハサミムシ (ハサミムシ目ハサミムシ科) の記録。ホシザキグリーン財団研究報告, (13) : 149-150.
日本直翅学会編 (2016) 「日本産直翅類標準図鑑」。学研。

県内での生息地域・生息環境

島根県東部および隠岐諸島の海岸に生息する。夜間調査を行えば、より広範囲な地点で確認される可能性がある。

存続を脅かす原因

自然度の高い磯浜海岸の消失。

(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

バッタ目コオロギ科

カヤコオロギ

Euscirtus japonicus (Shiraki, 1930)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

局所的な分布を示すため。

概要

体長約10-20mm。翅は短く腹部の中央にとどく程度。発音器がないため鳴かない。年1化で、成虫は8-10月に見られる。卵で越冬。河川敷や林縁などのイネ科草本に生息する。国内では本州、四国、九州、国外では朝鮮半島に分布する。

参考文献

林 成多・大浜祥治 (2014) 島根県に生息する直翅目の目録と生態写真集。ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (11): 1-90。
日本直翅学会編 (2016) 「日本産直翅類標準図鑑」。学研。

県内での生息地域・生息環境

県東部および中部で記録されている。鳴かないために発見が難しいが、地表が湿っている場所のチガヤ草地などを重点的に探せば、生息地はさらに見つかると思われる。

存続を脅かす原因

草原の減少。手を入れないことによる遷移、特にクズなどの進入によるマント群落化など。

(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

バッタ目コロギス科

コバネコロギス

Metriogryllacris magnus (Matsumura et Shiraki, 1908)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):大浜祥治

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内のおもな記録は、隠岐(島前)に限られ、その他地域の生息状況はほとんど分かっていない。

概要

体長約20mm。触角は体長の5倍以上。翅は退化して痕跡的。体は赤褐色で、腹部背面は各節後縁が黒色のために横縞模様が顕著。形態はハネシコロギスに酷似するが、ごく短い翅を持ち、後脛節背面に特に大きな棘を有しない。樹上性で、広葉樹などの葉の一部を切り、筒状に巻いて巣を作る。本州以南、南西諸島、台湾に分布する。

参考文献

大浜祥治 (2007) 2006年隠岐・島前で確認した直翅類。すかしば, 55 : 55-60。
大浜祥治 (2009) 隠岐・島前で確認した直翅類-第2報-。すかしば, 57 : 9-12。

県内での生息地域・生息環境

西ノ島町の美田ダムでは、ダムサイトの投光器に誘引される本種が8-12月までの間、連続的に確認されている。暖帯海岸の照葉樹林に生息し、他県でも島嶼における多産の報告例がある。

存続を脅かす原因

広葉樹を主体とする森林の伐採など生息域の環境悪化。

(執筆: 大浜 祥治)

情報不足 (DD)

バッタ目キリギリス科

ハタケノウマオイ

Hexacentrus japonicus Karny, 1907

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

おもな生息地が平地であり、市街地化に伴って生息地が減少している。

概要

体長約30-35mm。体色は淡緑色で、頭部から前胸の背面に濃褐色の太い条がある。前脚の脛節には鋭い棘がある。成虫は8月上旬から中旬にかけて現れ、オスは夜間「ズイチョ、ズイチョ」とせわしなく鳴く。灯火にもよく飛来する。平野部の草原に生息するが、現在では林地に隣接した丈の高い草地で見られる傾向が強く、広域に開けた草地ではあまり見られなくなった。日本固有種で本州、四国、九州、南西諸島に分布する。

参考文献

林 成多・大浜祥治 (2014) 島根県に生息する直翅目の目録と生態写真集, ホシザキグリーン財団研究報告特別号,(11): 1-90.

県内での生息地域・生息環境

本土域および隠岐諸島で記録されている。平野部に生息するが局地的である。

存続を脅かす原因

平野部における草原環境の減少。市街地化。

(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

バッタ目バッタ科

クルマバッタ

Gastrimargus marmoratus (Thunberg, 1815)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):樋野耕一

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

局所的な分布を示すため。

概要

体長約40-57mm。トノサマバッタに似ているが、前胸背面が稜線状に隆起し、後翅に着色はなく、黒色の横帯がある。クルマバッタモドキとは、後翅の色のほか、前胸を背面から見たときにX字上の白色斑紋を欠いていることで区別できる。成虫は8-10月に見られる。国内は本州、四国、九州、南西諸島、国外は東アジア、東南アジア、南アジアに分布する。

参考文献

林 成多 (2023) 出雲市小境町でクルマバッタを撮影。すかしば, (70): 75.
林 成多・大浜祥治 (2014) 島根県に生息する直翅目の目録と生態写真集, ホシザキグリーン財団研究報告特別号,(11): 1-90.
樋野耕一 (2017) 髙ヶ集山山頂でクルマバッタとショウリョウバッタモドキを採集。すかしば, (64): 12-13.
日本直翅学会編 (2016) 「日本産直翅類標準図鑑」, 学研.

県内での生息地域・生息環境

島根半島の尾根沿いにおいて、周囲に樹木が生えている裸地などで確認されている。

存続を脅かす原因

植生の遷移。尾根の生息地は気象条件によって小規模な裸地環境が維持されていると考えられる。

(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

カメシ目ミズムシ科

ミヤケミズムシ

Xenocorixa vittipennis (Horvath, 1879)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):尾原和夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧(NT)



選定理由

水生植物が豊富な池沼に住む中型のミズムシで、全国的に生息環境が局所的で県内での確認地点は多くない。

概要

体長7.2-9.1mm。丸みのある光沢の強い種である。淡青黄色に黒色条斑をもち、前胸背には6-8条の黒色帯がある。本州・四国・九州、台湾・中国に分布する。

参考文献

川野敬介・尾原和夫・大木克行・吉岡誠人・青木新吾・林 成多・皆木宏明 (2011) 島根県産水生半翅類の分布記録, ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (2): 104pp.

県内での生息地域・生息環境

生息確認地は東部4地点、中・西部各1カ所で大部分が平地の溜池であった。生息池での成虫発生時期には個体群密度は比較的大きい。隠岐諸島では確認されていない。

存続を脅かす原因

溜池などの止水域の大規模な開発、水路整備や宅地造成など。各種排水の流入や帰化動物の放流。

(執筆: 尾原 和夫)

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

情報不足 (DD)

カメムシ目ナベブタムシ科

トゲナベブタムシ

Aphelocheirus nawae Nawa, 1905

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):山田学

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類(VU)



選定理由

全国的にみても希少性が高く、今世紀初め頃県西部1カ所で生息が確認された。その後同所での発見がなく、生息環境の悪化による絶滅が危惧される。

概要

体長8.5—10mm前後。流速があり、底に砂や細礫のある水路や川に生息する。近縁種のナベブタムシとは腹背腺や前胸背などの特徴で見分けられる。本州西部・九州、国外では朝鮮半島に分布する。

参考文献

市川憲平(2014) コンクリート水路の絶滅危惧種:トゲナベブタムシの発見から.昆虫と然,49(2):19-22.
尾原和夫(2008) 島根県におけるナベブタムシ類の分布. ホシザキグリーン財団研究報告, (11): 211-215.

県内での生息地域・生息環境

1998年に益田市匹見町の1水路で発見された。この水路はその後の調査では3面コンクリート化され底の細礫がなくなっており、本種は未確認。他地域で生息が確認されなければ本県では絶滅した可能性が大きい。

存続を脅かす原因

生息地の水質汚濁、河川・水路の改修(細礫除去・流出)。溶存酸素量の減少や泥の堆積。魚類などの捕食。

(執筆:尾原 和夫)

情報不足 (DD)

カメムシ目ミズカメムシ科

ミズカメムシ

Mesovelia vittigera Horváth, 1895

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

No Image

選定理由

生息地が局地的であり、希少であるため。

概要

体長2.3—3.4mmで、体は緑褐色で光沢がある。オスの腹部第8節腹面中央には黒色の毛束からなる突起があり、これが他種との区別に用いられる形質である。ふつう無翅型であるが、まれに長翅型が出現する。

参考文献

川野敬介・尾原和夫・大木克行・吉岡誠人・青木新吾・林 成多・皆木宏明(2011) 島根県産水生半翅類の分布域録. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (2): 1-104.

県内での生息地域・生息環境

浮葉植物や抽水植物が豊富な溜池に生息する。県内の記録は東部の1カ所のみである。大橋川や中海からの本種の記録はキタミズカメムシの誤同定である。

存続を脅かす原因

生息環境の悪化と消失。

(執筆:林 成多)

情報不足 (DD)

カメムシ目イトアメンボ科

イトアメンボ

Hydrometra albolineata (Scott, 1874)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):青木浩

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類(VU)



選定理由

溜池などの生息地が失われ、全国的に絶滅が危惧されている。隠岐(島後)を含む県内でも生息の記録がある。

概要

体長11—14mm、暗褐色から黒色で、長翅型と短翅型がある。オスの腹部7節の腹面には縦にくぼみ長毛がある。池沼・水田などの水際にすみ、水面を走る。本州・四国・九州・トカラ諸島、朝鮮半島・中国・台湾に分布。

参考文献

川野敬介・尾原和夫・大木克行・吉岡誠人・青木新吾・林 成多・皆木宏明(2011) 島根県産水生半翅類の分布記録. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (2): 104pp.

県内での生息地域・生息環境

県内での記録は灯火採集によるものが多く、近年は確実な生息地は確認されていない。本種と同所的に生息する同属のヒメイトアメンボはやや小型で、県内全域に記録がある。

存続を脅かす原因

水辺の植生破壊、3面コンクリート化、水質汚濁などの環境悪化。

(執筆:尾原 和夫)

情報不足 (DD)

カメムシ目アメンボ科

セアカアメンボ

Limnoporus genitalis (Miyamoto, 1958)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 森本涼介

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

島根県は他産地から大きく離れており、生物地理学的に興味深く希少であるが、県内の記録がきわめて少なく生息状況が不明なため。

概要

体長11.5-14.6mm。背面は赤褐色~橙褐色、体側部は銀白色を呈す。体型は細長く、触角は体長の半分程度に達し、第1節が最も長い。主な生息地である北海道では、原生的で植生豊富な池沼を好むが、島根県内では開放水面環境で見ついている。飛翔性の高い長翅単型種で、春から秋にかけて飛翔する。国内では北海道、本州(青森県、島根県)、九州(対馬)、国外ではロシア極東部、千島列島に分布する。

参考文献

森本涼介 (2020) 島根県におけるセアカアメンボの追加記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (23): 283-284.
中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之 (2020) 日本の水生昆虫, 275pp. 文一総合出版, 東京.
中尾史郎 (2019) 陸水アメンボ類の保全生物学と生態工学. 昆虫と自然, 54 (7): 5-9.
野崎達也・大對桂一・宇木浩太・塚田 拓 (2024) 対馬から発見されたセアカアメンボ(カメムシ目:アメンボ科). 月刊むし, 636: 10-11.

県内での生息地域・生息環境

県東部でのみ確認されており、平野部のため池や山間部の開けた浅い湿地に生息する。

存続を脅かす原因

生息環境の悪化や消失。

(執筆: 森本 涼介)

情報不足 (DD)

カメムシ目マキバサシガメ科

キバネアシブトマキバサシガメ

Prostemma kiborti (Jakovlev, 1889)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 尾原和夫

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

地表性で採集が困難な種であり、全国的に希種とされる。県内では最近になって生息が確認された。

概要

体長10mm内外、光沢のある黒色で、粗い毛でおおわれている。翅は短く革質部は黄褐色で、膜質部は退化する。地表の石下で生活する。分布域は国内では本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国・モンゴル・極東ロシア。

参考文献

中村慎吾・松田 賢 (2005) 島根県高津川の昆虫類,2000年の調査結果,ホシザキグリーン財団研究報告,(8):99-172.

県内での生息地域・生息環境

斐伊川や高津川の河川水辺の調査では河川敷で少数が記録されている。

存続を脅かす原因

河川敷の破壊、3面コンクリート化、水質汚濁などの環境の悪化。

(執筆: 尾原 和夫)

情報不足 (DD)

カメムシ目サシガメ科

アシマダラアカサシガメ

Haematoloecha rubescens Distant, 1883

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 野津幸夫

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

暖地の森林に生息する地表性のサシガメであり、分布域は広いが個体数は少ない。

概要

体長11.5-14mmで頭部、前胸背、小楯板は赤色である。前翅は黒色で革質部の前縁と基部、中央の横帯は赤色を呈する。脚も赤色で、各節に黒帯がある。本州・四国・九州・伊豆諸島・小笠原諸島・奄美大島・沖縄本島、朝鮮半島・中国に分布する。

参考文献

宮武類夫編 (1996) 「青木浩昆虫コレクション目録」. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第28集
野津幸夫 (2018) アシマダラアカサシガメを枕木山で採集. すかしば, (65): 11.

県内での生息地域・生息環境

雲南市三刀屋町で戦前の記録があり、近年松江市枕木山でも見つかった。生息環境はアダチサシガメと同様に海岸部の林床とされるが、低山地の雑木林でも生息するようだ。

存続を脅かす原因

里山の雑木林の林床の汚染・破壊、廃棄物投棄。

(執筆: 尾原 和夫)

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

情報不足 (DD)

カメムシ目サシガメ科

クロバアカサシガメ

Labidocoris insignis Distant, 1883

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):尾原和夫



選定理由

日本特産のサシガメで、県内での生息地は局限され、個体数も少ない。

概要

体長12mm内外で、前胸背後葉、前翅革質部後縁、腹部が鮮やかな紅色である。山地の草むらで発見され、朽ち木の樹皮下などで成虫越冬する。本州・四国・九州に分布する。

参考文献

林原毅一郎(1992) 知夫里島のカメムシ類。すかしば, (37/38):61-63.
尾原和夫(1994) 三瓶の異翅半翅類。「三瓶山の昆虫相とその保全」, 20-26.島根昆虫研究会。

県内での生息地域・生息環境

三瓶山と隠岐(知夫里島)の2カ所で記録がある。これらの二次草原的な放牧地に生息するものと思われる。

存続を脅かす原因

草原の物理的破壊、火入れなどの過剰な管理、大気汚染などの環境の悪化、植生の遷移。

(執筆者:尾原 和夫)

情報不足 (DD)

カメムシ目サシガメ科

クビアカサシガメ

Reduvius humeralis (Scott, 1874)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):尾原和夫



選定理由

大型のサシガメ類で、県内の生息地が局限され、日本固有種であり個体数も少ない。

概要

体長13-16mm、光沢のない黒色で、長軟毛を密生する。前胸背の後半が暗赤色で、その中央は黒色。コナラ、クヌギなどの樹上で生活し、鱗翅類の幼虫などを捕食する。本州・四国・九州・南西諸島に分布する。

参考文献

町田禎之(1985) 匹見町の半翅目。すかしば, (23):1-8.
宮武頼夫編(1996)「青木浩昆虫コレクション目録」.大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第28集
尾原和夫(2000) 島根県で採集された未公表の異翅半翅類。すかしば,(48):33-41。

県内での生息地域・生息環境

中国山地下部の4カ所で記録がある。環境の良い里山のクヌギ・コナラの二次林に生息する。

存続を脅かす原因

里地の森林伐採、廃棄物投棄や大気汚染などの環境の悪化。

(執筆者:尾原 和夫)

情報不足 (DD)

カメムシ目サシガメ科

ウデワユミアシサシガメ

Polytoxus armillatus T. Ishikawa, 1998

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):尾原和夫



選定理由

近年記載された小型のサシガメで、水辺の湿性草原に生息し個体数は少ない。県内では1991年に初発見されているが、その後の記録は少ない。

概要

体長10mm内外、赤褐色で体正中部に黒帯がある。河川や池沼のヨシ帯に生息する。北海道・本州・九州・南西諸島に分布する。

参考文献

林 成多・野崎達也・片岡大輔・篠原隆佑・近藤陽介(2019) 島根県雲南市木次町ふるさと尺の内公園におけるカメムシ類(半翅目)調査。ホシザキグリーン財団研究報告,(22):1-12.
尾原和夫(2000) ユミアシサシガメ属Polytoxusの島根県における記録。すかしば,(48):42。

県内での生息地域・生息環境

斐伊川水系の下流域の河川敷2カ所で記録されている。岸辺のヨシ帯で、小昆虫を捕食すると思われる。同属のキベリユミアシサシガメは、県東部の河川敷など発見されており、形態・生態は本種とよく似ている。

存続を脅かす原因

河川改修などに伴うヨシ帯の破壊、廃棄物投棄や水質汚濁などの環境悪化。

(執筆者:尾原 和夫)

情報不足 (DD)

カメムシ目ナガカメムシ科

ヒメダラナガカメムシ

Graptostethus servus (Fabricius, 1787)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):尾原和夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

海岸砂丘のハマヒルガオ群落に特異的に生息するカメムシで、県内の生息地は局限され個体数も少ない。

概要

体長10mm内外、橙赤色の地に頭部、胸背、脚、前翅などに黒色の斑紋がある。前翅の斑紋には変異がある。ハマヒルガオなどを食草とする。本州・四国・九州・南西諸島、朝鮮半島・中国・台湾に分布する。

参考文献

林 成多 (2015) 島根県の海岸に生息する昆虫。ホシザキグリーン財団研究報告特別号,(14):120pp
林 成多・門脇久志・松田隆嗣・深谷 治・近見芳恵 (2015) 隠岐諸島における昆虫分布調査Ⅳ。ホシザキグリーン財団研究報告,(18):179-196。
尾原和夫 (1988) 島根県東部で採集した陸生カメムシ類 (2)。すかしば,(29):7-9。

県内での生息地域・生息環境

出雲市大社町、大田市の砂質海岸2カ所、隠岐知夫里島で確認されているが、近年の記録は少ない。

存続を脅かす原因

海岸砂丘の浸食・後退、廃棄物堆積や植生の破壊。
(執筆者:尾原 和夫)

情報不足 (DD)

カメムシ目カメムシ科

イシハラカメムシ

Charazonotum ishiharai (Linnavuori, 1961)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):尾原和夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

山地の広葉樹林縁部で発見されるカメムシで、県内では近年確認されたが、産地は局地的で個体数も少ない。

概要

体長9-11mm、黄褐色に多数の黒色点刻を散布する。小楯板の先端には黄白色紋がある。幼虫・成虫ともにミツバウツギの実を吸収する。本州・四国・朝鮮半島に分布する。

参考文献

尾原和夫 (2010) 珍種イシハラカメムシを奥出雲町で発見。すかしば,(58): 12。

県内での生息地域・生息環境

奥出雲町上阿井の林道法面のミツバウツギで発見された。ミツバウツギは県内ではまれな植物ではないので、今後生息地はもっと見つかると思われる。

存続を脅かす原因

山間部の大規模な開発(道路整備や宅地開発) 道路法面の伐採など。
(執筆者:尾原 和夫)

情報不足 (DD)

カメムシ目ノコギリカメムシ科

ノコギリカメムシ

Megymenum gracilicorne Dallas, 1851

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):尾原和夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

農耕地周辺の水辺の草本群落で発見されるカメムシで、生息地は局限され個体数も少ない。暖地系のカメムシで本県は分布の北限とみられる。

概要

体長13-16mm、赤紫色を帯びた黒褐色で、頭部はシャベル状に突出する。前胸背の前縁と側縁に突起があり、腹部側縁は鋸歯状となる。カラスウリ、カボチャ、キュウリなどに見られる。本州・四国・九州・トカラ諸島、朝鮮半島・中国・台湾に分布する。

参考文献

林 成多・野崎達也・片岡大輔・篠原隆佑・近藤陽介 (2019) 島根県雲南市木次町ふるさと尺の内公園におけるカメムシ類(半翅目)調査。ホシザキグリーン財団研究報告,(22):1-12。
尾原和夫 (1986) 島根県東部で採集した陸生カメムシ類。すかしば,(26):5-11。
尾原和夫 (2002) 島根県で採集記録の少ない異翅半翅類について。すかしば,(50):73-75。

県内での生息地域・生息環境

県東部の平野部数カ所でのみ確認されている。水辺の地表で生活し発見・採集が困難な種類である。

存続を脅かす原因

水辺周辺の極端な除草や除草剤散布、水路のコンクリート化。
(執筆者:尾原 和夫)

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

情報不足 (DD)

カメムシ目ツノカメムシ科

フトハサミツノカメムシ

Acanthosoma crassicauda Jacovlev, 1880

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):大畑純二

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

大型のツノカメムシで、全国的にも希少種とされ、県内の生息地は局限され個体数も少ない。

概要

体長17-18mm、鮮やかな緑色で、オスの生殖節のハサミ状突起は太く後方に開く。前胸背の後側縁に顕著な歯状突起がある。イヌザクラ、ソメイヨシノなどのバラ科木本類に寄生する。国内では本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国・シベリア東部に分布する。

参考文献

尾原和夫(1994) 三瓶の異翅半翅類。『三瓶山の昆虫相とその保全』:20-26。島根昆虫研究会。

県内での生息地域・生息環境

三瓶山の1カ所でのみ記録がある。サクラ類をまじえた環境の良好な2次林に生息する。

存続を脅かす原因

植林などによる自然林の単層化や林床への廃棄物投棄などの環境の悪化。

(執筆者:尾原 和夫)

情報不足 (DD)

カメムシ目ツノカメムシ科

エゾツノカメムシ

Acanthosoma expansum Horvath, 1905

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):尾原和夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

中型のツノカメムシで、県内の生息地は局限され、山地の自然度の指標となる。

概要

体長12-15mm、緑褐色で、前胸背側角は黒く強く突出する。ミズキやニワトコ、キイチゴ類などの植物上で見られる。北海道・本州・四国・九州、中国・南千島に分布する。

参考文献

町田禎之(1985) 匹見町の半翅目。すかしば。(23):1-8。
尾原和夫(2000) 島根県で採集された未公表の異翅半翅類。すかしば。(48):33-41。

県内での生息地域・生息環境

中国山地と隠岐(島後)に記録がある。山地の広葉樹をまじえた環境の良好な2次林に生息する。

存続を脅かす原因

山林の伐採や大気汚染などの環境の悪化。

(執筆者:尾原 和夫)

情報不足 (DD)

カメムシ目セミ科

キュウシュウエゾゼミ

Auritibicen kyushyuensis (Kato,1926)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	—	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):谷山多真代

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

生息地がブナ帯とその周辺に局限され、本県の西中国山地は本州における数少ない生息確認地である。

概要

体長は34-40mmで、翅端までは49-57mmである。形態、生態ともにコエゾゼミとよく似ている。中胸背のW字状紋が太く、オスの腹弁はコエゾゼミより短く第3腹板に達しないので区別できる。本州(広島、山口、島根)・四国(愛媛、高知)・九州に分布する。

参考文献

林 正美・税所康正(2011) 日本産セミ科図鑑。220pp.誠文堂新光社。東京。
児島孝宣(2025) 島根県で発見されたキュウシュウエゾゼミ。CICADA。32(2):37-38。
大木亮行(2000) キュウシュウエゾゼミを山口県で採集。CICADA。15(2):21-22。

県内での生息地域・生息環境

本州における分布の中心は西中国山地と考えられていたが、本県では最近まで確実な生息情報が得られていなかった。ところが2025年8月、山口県側の生息地(寂地山)から北西8kmの安蔵寺山で本種オス成虫の2個体が発見された。この地域はブナ・ミズナラ・ツガなどを含む自然林が連続して残っており本種の確実な生息地とみられる。

存続を脅かす原因

開発や温暖化、環境汚染によるブナ・ミズナラ林の消失や分断。

(執筆者:尾原 和夫)

情報不足 (DD)

カメシ目ハネナガウンカ科

シリアカハネナガウンカ

Zoraïda horishana Matsumura, 1914

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	準絶滅危惧 (NT)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 島田孝

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

照葉樹を交えた丘陵地の里山に生息する大型のウンカで、個体数が少なく全国的に希種とされる。

概要

体長は6mm(翅端まで14mm)で、前翅が非常に長く黒褐色。頭部と触覚は黄色で、腹端は鮮紅色。小楯板は大きく褐色を帯びる。幼虫はウメの朽木に生えるキノコで育つらしい。本州・四国・九州、台湾に分布する。

参考文献

長谷川仁(1965)シリアカハネナガウンカ。「原色昆虫百科図鑑」:338.集英社.東京.
尾原和夫(2006)島根県の半翅類。「新島根の生物」.189-202.日本生物教育会第61回全国大会事務局.
尾原和夫(2025)島根県のハゴロモ型類(1).すかしば,(72):1-5.

県内での生息地域・生息環境

隠岐の島町中谷で近年確認された。上記の分布域から、県本土のあまり冷涼でない地域の里山で発見される可能性はある。

存続を脅かす原因

丘陵地の里山の破壊や伐採。これらの地域の長期間の放置による竹林化。

(執筆: 尾原 和夫)

情報不足 (DD)

カメシ目アリツカウンカ科

アリツカウンカ

Tettigometra bipunctata Matsumura, 1900

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 北村憲二

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

幼虫がアリの巣に共生するという特異な習性を持つ。本科、本属の日本産の種は1種のみで、個体数も少ない。

概要

体長(翅端まで)10mm、ふつうのウンカに比べて体幅が広い。体や前翅は淡褐色で、暗赤褐色と赤色の顆粒を散布する。本州・四国・九州から知られる希種で、幼虫はアリの巣内で生活する。越冬成虫は樹皮下などアリの巣の周辺で見つかる。

参考文献

北村憲二(1994)瑞穂町の同翅類。「瑞穂町の昆虫類」:24-26. 島根昆虫研究会.
丸山宗利ほか(2013)アリツカウンカ。「アリの巣の生き物図鑑」.208pp.東海大学出版会.

県内での生息地域・生息環境

県中部の中国山地林縁部の1カ所で記録されている。

存続を脅かす原因

広葉樹を主体とする自然林の破壊や、里山の放置による遷移の進行。

(執筆: 尾原 和夫)

情報不足 (DD)

カメシ目マルウンカ科

カタビロクサビウンカ

Issus harimensis Matsumura, 1913

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 尾原和夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

アカマツやネズなどの針葉樹につく希種とされ、県内における生息記録は少なくアカマツ林の衰退の指標となる。

概要

体長(翅端まで)8mm程度のウンカのなかまでである。頭部は黄褐色、体は黒褐色でやや扁平。前翅の幅は広く後方に向かってやや狭くなる。前翅の膨出部には白帯がある。本州と四国に分布する。発生期は6月初旬頃。

参考文献

尾原和夫(2025)島根県のハゴロモ型類(1).すかしば,(72):1-5.

県内での生息地域・生息環境

県東部と隠岐(島後)のアカマツをまじえた丘陵地で生息が確認されている。他にも、やや急峻な丘陵地のアカマツ林で、市街化していない地域に生息しているものと思われる。

存続を脅かす原因

降水量減少によるアカマツ林の衰退や、人手不足の結果遷移の進行。「松枯れ予防」と称する殺虫剤散布。

(執筆: 尾原 和夫)

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

情報不足 (DD)

カメムシ目アオバハゴロモ科

キノカワハゴロモ

Atracis formosana Jacobi, 1915

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):尾原和夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

本州で分布が確認された南方系の種であり、アリと共生するなど独特の生活様式をもつハゴロモ類である。

概要

体長(翅端まで)7mm程度、体は扁平で軍配型。緑色の地に暗黒色の模様が全体にあり、樹皮に似ている。複眼はよく発達し側方に突出する。成虫は各種の広葉樹上に見られ、幼虫は樹皮下や根内のヤマアリなどの巢内で生活する。本州・四国・九州・南西諸島に分布する。県内では1999年に東部低山地で確認された。

参考文献

林 成多・野崎達也・片岡大輔・篠原隆佑・近藤陽介(2019) 島根県雲南市木次町ふるさと尺の内公園におけるカメムシ類(半翅目)調査。ホシザキグリーン財団研究報告,(22):1-12。
丸山宗利ほか(2013) キノカワハゴロモ。『アリの巣の生き物図鑑』,208pp,東海大学出版会。
尾原和夫(2025) 島根県のハゴロモ型類(1)。すかしば,(72):1-5。

県内での生息地域・生息環境

成虫は松江市(旧宍道町)、雲南市(旧木次町)、浜田市(旧弥栄村)、津和野町(旧日原町)の山間の谷沿いの雑木林(クレーコナラ林)で採集されている。

存続を脅かす原因

里山周辺の開発に伴う森林破壊や、落葉広葉樹の過度な伐採。

(執筆者:尾原 和夫)

情報不足 (DD)

カメムシ目キジラミ科

シャシャンボキジラミ

Cacopsylla vaccinii (Miyatake, 1964)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

松枯れによって尾根の植生が変化し、寄主植物であるシャシャンボの生育地が減少している。

概要

体長約2.5mm。翅は透明で顕著な模様はない。寄主はツツジ科のシャシャンボで、幼虫は虫えい(虫こぶ)を形成しない。新成虫は6月に出現する。成虫は羽化後しばらくすると寄主から分散し、野外での発見は困難になる。日本固有種で、本州、四国、九州、南西諸島に分布する。

参考文献

林 成多・宮武頼夫・門脇久志(2011) 島根県のキジラミ相。ホシザキグリーン財団研究報告,(14):213-250。

県内での生息地域・生息環境

県東部の丘陵地で確認されている。隠岐諸島にはシャシャンボが自生しているものの、これまでのところ確認されていない。

存続を脅かす原因

松枯れによる植生の変化。

(執筆者:林 成多)

情報不足 (DD)

コウチュウ目 ハンミョウ科

コハンミョウ

Myriochile speculifera (Chevrolat, 1845)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):山本正志

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

砂質の河原に生息するが生息に適した環境が減少。

概要

体長11-13mm。灰色で鈍い金属光沢がある。上翅には細い白色の斑紋がある。成虫は春から秋にかけて出現し7-8月に多い。成虫は地表を俊敏に歩行・飛翔して小昆虫等を捕食し、幼虫は土中に掘った孔に身を潜め、付近を通る小昆虫を捕食する。河川敷、河口など水辺の粘土質の混じった裸地に見られるが、丘陵地など裸地・乾燥した場所でも生息が確認されている。北海道、本州、四国、九州、南西諸島。海外では台湾、中国、東南アジアに分布。

参考文献

三木孝人(2020) 出雲市と奥出雲町でアイヌハンミョウを採集。すかしば, 68:41-43。
野津幸夫・航平・雅陽・朔太郎(2024) 松江市本庄町近辺で採集した興味ある昆虫 ～古い標本箱からのノスタルア～。すかしば, 71:80-104。
山田 学(2003) 島根県西部地域におけるハンミョウ類・ヒョウタンゴムシ類の採集および観察記録。すかしば, 51:34-36。
山本正志(2005) 島根県中部地域(江の川流域)におけるハンミョウ類の採集及び観察記録。すかしば, 53:31-34。

県内での生息地域・生息環境

県東部から西部の河川の中・下流域。隠岐諸島で記録がある。既知産地で見られなくなった場所もある。

存続を脅かす原因

大規模な河川改修工事による生息適地の消失、豪雨による生息適地の環境の変化。

(執筆者:福井 修二)

情報不足 (DD)

コウチュウ目ハンミョウ科

アイヌハンミョウ

Cicindela gemmata Lewis, 1891

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
-	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):板持孝祐

島根県固有評価

-

環境省カテゴリ

準絶滅危惧(NT)



選定理由

石礫がある河川敷が主な生息環境である。県内の分布も局所的。

概要

体長16-17mm。体色は青緑色を帯びた鈍い金属光沢。上翅には太くはっきりした白紋があり、青く光る孔点の列がある。成虫は春期に石礫が多くあるような大型河川の上中流域の河川敷に局所的に出現する。晴れた日に活発に歩行、飛翔して、小型の昆虫類を捕食する。気温の低い日、曇天時は石の下に潜んでいることが観察されている。北海道、本州、四国、九州、朝鮮半島、中国、シベリア南東部に分布。

参考文献

三木孝人 (2020) 出雲市と奥出雲町でアイヌハンミョウを採集。すかしば, 67:77.
山田 学 (1999) 匹見町の甲虫採集記録。すかしば, 47:9-18.
山田 学 (2003) 島根県西部地域におけるハンミョウ類・ヒョウタンゴミムシ類の採集および観察記録。すかしば, 51:34-36.
山本正志 (2005) 島根県中部地域(江の川流域)におけるハンミョウ類の採集及び観察記録。すかしば, 53:31-34.

県内での生息地域・生息環境

県東部から西部の大型河川の上中流域の河川敷に生息。生息地では多く見られるが、そのような生息地は局所的。西部地域では比較的多く採集されていたが、河川河口改修の影響で良好な生息地が減少したところもある。

存続を脅かす原因

大規模な河川改修工事による生息適地の消失、豪雨による生息適地の環境の変化。

(執筆: 福井 修二)

情報不足 (DD)

コウチュウ目ハンミョウ科

コニワハンミョウ

Cicindela transbaicalia Chaudoir, 1863

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
-	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):大浜祥治

島根県固有評価

-

環境省カテゴリ

-



選定理由

砂質の河原等を主な生息地であるが、生息に適した環境が減少している。

概要

体長11-13mm。体色は緑を帯びた灰色の金属光沢で、上翅には白い紋があり、この白紋が上翅端までであることが特徴。河原の砂地になっている場所の、砂が乾燥した場所に見られる。成虫は春から秋に出現し7-8月に多い。成虫は地表を俊敏に歩行・飛翔して小昆虫等を捕食し、幼虫は土中に掘った孔に身を潜め付近を通る小昆虫を捕食する。河川敷、河口の乾いた粒の小さな砂地に見られるほか、丘陵地の裸地・乾燥地にも見られる。北海道、本州、四国、九州に分布。

参考文献

三木孝人 (2020) 出雲市と奥出雲町でアイヌハンミョウを採集。すかしば, 68:41-43.
山田 学 (2003) 島根県西部地域におけるハンミョウ類・ヒョウタンゴミムシ類の採集および観察記録。すかしば, 51:34-36.
山本正志 (2005) 島根県中部地域(江の川流域)におけるハンミョウ類の採集及び観察記録。すかしば, 53:31-34.

県内での生息地域・生息環境

県東部から西部の大型河川の中流域の河川敷に生息。良好な生息地が減少したところもある。

存続を脅かす原因

河川の大規模な改修工事等による生息地の消失、豪雨による生息適地の環境縮小。

(執筆: 福井 修二)

情報不足 (DD)

コウチュウ目ハンミョウ科

ホンハンミョウ

Cylindera gracilis Pallas, 1777

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
-	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):山本正志

島根県固有評価

-

環境省カテゴリ

絶滅危惧Ⅱ類(VU)



選定理由

全国的にも生息地が限られ少ない種であり、県内の分布も限定される。

概要

体長10-12mm。細長い体型で、体色は黒みを帯びた金属光沢を持つ。上翅には4つの白色の斑紋を持つ。上翅後半の中央部に赤い紋が出る型もある。成虫は7-8月に出現する。飛翔せず素早く地上を徘徊して昆虫など小動物を捕食する。幼虫は土中に穴を掘り中に身を潜めて、近くを通る獲物を待ち伏せて捕食する。本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国、シベリアに分布。

参考文献

上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝編 (1985) 「原色日本甲虫図鑑(Ⅱ)」, 514pp. 保育社.
山本正志 (2005) 島根県中部地域(江の川流域)におけるハンミョウ類の採集及び観察記録。すかしば, 53:31-34.

県内での生息地域・生息環境

県西部の山地に形成された疎林・草地の混じる環境で初めて確認されたが、近年、森林化によって生息適地とされる環境が変化している。

存続を脅かす原因

開発等による生息地の消滅や、草原、疎林が植生遷移によって森林化するなど、生息適地の劣化・縮小。

(執筆: 福井 修二)

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

情報不足 (DD)

コウチュウ目オサムシ科

ヒョウタンゴミムシ

Scarites aterrimus Morawitz, 1863

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

以前は普通種であったが、海岸の開発により見る機会が減っている。

概要

体長15-20mm。大あごが著しく発達し、体の幅が広く前胸前角は突出する。後翅は退化しこん棒状。海岸の砂地に生息しており、他の昆虫との見分けは比較的容易。夜間に海岸砂地を徘徊すると見つかることがある。北海道、本州、四国、九州。国外では中国、朝鮮半島に分布。

参考文献

林 成多 (2015) 島根県の海岸に生息する昆虫。ホシザキグリーン財団研究報告特別号,(14)1-120。
河上康子・林 成多 (2007) 日本海沿岸の海浜性甲虫類の研究(2)島根半島。ホシザキグリーン財団研究報告,(10)37-76。
河上康子・稲畑憲昭 (2001) 島根県三隅町田ノ浦海岸の甲虫調査-オオヒョウタンゴミムシほかの記録-。Nature study,47(3)9-10。
野津 裕 (1978) 島根県の甲虫。すかしば,(9)9-12。
山田 学 (2003) 島根県西部地域におけるハンミョウ類・ヒョウタンゴミムシ類の採集および観察記録。すかしば,(51)34-36。

県内での生息地域・生息環境

松江市、出雲市、大田市、浜田市、益田市、隠岐諸島(隠岐の島町、西ノ島町)

存続を脅かす原因

海岸の開発。

(執筆者:三木 孝人)

情報不足 (DD)

コウチュウ目オサムシ科

ムラサキオオゴミムシ

Trigonognatha coreana (Tschitscherine, 1895)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

県内で確認された生息地は局所的で報告数も少ない。

概要

体長18.5-20.5mm。大型種。同じ *Trigonognatha* 属では後翅が退化しているものが多いが、本種は退化していない。近似種に後翅が退化した比較的よくみられるアカガネオオゴミムシがいる。本州、四国、九州。国外では朝鮮半島に分布。

参考文献

林 成多・門脇久志・深谷 治・近見芳恵 (2011) 隠岐諸島における昆虫類分布調査。ホシザキグリーン財団研究報告,(14)299-306。
林 成多・門脇久志・松田隆嗣・深谷 治・近見芳恵 (2015) 隠岐諸島における昆虫類分布調査IV。ホシザキグリーン財団研究報告,(18)179-196。
中村慎吾・羽尻光宏 (2007) 島根県高津川の昆虫類,2005年の調査結果。比和科学博物館研究報告,(48)103-264。
中村慎吾・松田 賢 (2005) 島根県高津川の昆虫類,2000年の調査結果。ホシザキグリーン財団研究報告,(8)99-172。

県内での生息地域・生息環境

益田市高津川、隠岐島前(知夫村、中ノ島)

存続を脅かす原因

不明。

(執筆者:三木 孝人)

情報不足 (DD)

コウチュウ目オサムシ科

ノツメクラチビゴミムシ

Rakantrechus (Uozumitrechus) notsui S. Ueno, 2010

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

島根県固有種、基準標本産地

環境省カテゴリー

-



選定理由

島根半島が本種の基準標本産地となっているが、記載されて以降に新たな採集記録がなく、情報が不足している。

概要

九州中央部、四国西部、中国地方西部に分布するラカンメクラチビゴミムシ属の中で秋吉台に分布中心のあるアキヨシメクラチビゴミムシ亜属のうち本種とミスメクラチビゴミムシは島根県に産し、他種の分布域から離れて飛び石状になっている。

参考文献

Ueno, S. (2010) Occurrence of a New *Uozumitrechus* (Coleoptera, Trechinae) in the Shimane Peninsula, West Japan. Elytra, 38(1): 131-136.

県内での生息地域・生息環境

2008年に島根半島西部の廃坑で発見された。所属亜属の日本海側での分布東端で、ミスメクラチビゴミムシとの間には大きな空白地帯を挟んでいる。基準産地には他に2種のチビゴミムシが見つかっており、本種も周辺の地中に生息していると思われるが特異な分布の理由も含めて判断材料が不足している。

存続を脅かす原因

同属他種の状況から見ると安定的な地中環境を好むように思われることから、地下水系の変化を引き起こす治水などには注意を要する。

(執筆者:新部 一太郎)

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

情報不足 (DD)

コウチュウ目オサムシ科

ササジメクラチビゴミムシ

Stygiotrechus sasajii S. Ueno et Naito, 2007

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

島根県固有種、基準標本産地

環境省カテゴリー

—

No Image

選定理由

島根県が本種の基準標本産地で、2014年以降に同地域で行われた地下生物調査でも発見されておらず、記載されて以降の情報がない。

概要

体長約2.5mm。体色がアメ色で後翅が無く、無眼といった、洞窟や地下に生息する昆虫の特徴をもつ。九州北部から瀬戸内に分布するノコメクラチビゴミムシ属のなかでイズメクラチビゴミムシとともに日本海側に産する特異な種である。

参考文献

Ueno, S. and Naito, T. (2007) Occurrence of *Stygiotrechus* (Coleoptera, Trechinae) on the Japan Sea Side of Western Honshu, Japan. Ent. Rev. Japan, 62(1): 11-15.

県内での生息地域・生息環境

2006年に江の川沿い（江津市）の低標高地で地中の礫層から見いだされ、翌年に記載された。2カ所で採集されているが以降の記録はない。おそらく江の川河口周辺の地中環境に生息していると思われるが絶滅リスクを評価するためにはさらなる情報が必要である。

存続を脅かす原因

情報不足で具体的な危機には言及できないが、江の川河口周辺の大規模な改変や地中環境に影響する護岸などは脅威となり得る。

(執筆者：新部 一太郎)

情報不足 (DD)

コウチュウ目オサムシ科

マシダナガゴミムシ

Pterostichus mashidai Ishida, 1959

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

基準標本産地

環境省カテゴリー

—



撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

選定理由

島根県は本種の基準標本産地となっている。県内の記録は少なく、詳しい生息状況は不明。

概要

体長15mm程度。体色は黒く光沢がある。体は細長く、本種が属するナガゴミムシとしては体が凸型で厚みがある。前胸背の基部に点刻がある。動物質・腐植質の餌を摂食する。中国地方の他県では、畦畔にある石の下などから採集されている。本州の中国地方に分布。

参考文献

林 成多 (2011) 島根県産甲虫目録。ホシザキグリーン財団研究報告特別号, 4: 1-161.
林 成多・片岡大輔・宇木浩太・森 孝之 (2024) 大万木山における甲虫調査 (2021・2122)。ホシザキグリーン財団研究報告, 27: 55-86.

県内での生息地域・生息環境

1953年に県西部の冠山で採集されている。その後の記録はなかったが、近年、県東部の山地や、島根半島から採集されているが、その他の地域での分布状況は不明である。

存続を脅かす原因

生息確認地域においては開発等による生息適地の消失。

(執筆者：福井 修二)

情報不足 (DD)

コウチュウ目オサムシ科

オキナガゴミムシ

Pterostichus okiensis Nakane, 1989

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

隠岐諸島固有種

環境省カテゴリー

—



撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

選定理由

隠岐(島後)から記載されたナガゴミムシで隠岐固有種であるが、原記載後の記録が少なく生息状況など詳しい状況は不明である。

概要

体長 17-18mm。黒色で光沢があり前胸背はやや長めで、匹見から記載されたエサキナガゴミムシによく似るが、腹部末端節後半があまり深く凹まず、後縁が波曲しないことで区別できる。

参考文献

三木孝人 (2020) オキナガゴミムシを隠岐島前で採集。ホシザキグリーン財団研究報告, (23): 278.
中根猛彦 (1989) 日本の雑甲虫覚え書。北九州の昆虫, 36 (3): 143-152.
佐藤陽路樹 (1994) 隠岐プロテア採集報告。プロテニュース, (10): 4-5.
島田 孝 (2004) 隠岐自然館甲虫標本目録。すかしば, (52): 33-40.
Shimizu, T. and R. Nakamura (2023) A Contribution to the knowledge of ground beetles (Coleoptera, Carabidae) from the Oki Islands, Japan. Elytra, New Series, 13 (2): 181-189.

県内での生息地域・生息環境

隠岐(島後)の都万および大満寺山で採集された個体により記載され、その後大満寺山での採集記録がある。シダ類が繁茂する山地の林縁や道路の側溝で採集されており、やや湿った林地が生息域と考えられる。島前では西ノ島で記録がある。

存続を脅かす原因

生息地域や生態が明らかでないが、大規模な伐採などによる林床の乾燥化。

(執筆者：林 成多)

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

情報不足 (DD)

コウチュウ目オサムシ科

ウミホソチビゴミムシ

Perileptus morimotoi S.Ueno, 1955

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
-	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリ

準絶滅危惧(NT)

No Image

選定理由

河口などの潮間帯に生息するゴミムシで、日本海側ではまれである。県内の生息状況は不明な点が多いが、生息地が限られている可能性が高い。

概要

体長1.8-2.3mm。体は扁平で背面は暗い色をしている。河川の潮感域の石下などに生息する。本州、四国、九州、南西諸島に分布する。これまでのところ本州の日本海側では島根県のみで記録がある。

参考文献

秋山美文・平野幸彦 (2004) 比和町立自然科学博物館所蔵の甲虫標本 (5)。比和町立自然科学博物館研究報告, 43: 115-131.
森 正人 (2010) ウミホソチビゴミムシの兵庫県における記録と生態的知見。月刊むし, 470: 46-29.

県内での生息地域・生息環境

2000年に高津川下流で記録がある。

存続を脅かす原因

河口の開発、特に干潟的な微環境の消失。河川水の塩分の変化。
(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

コウチュウ目オサムシ科

ウミミズギワゴミムシ

Sakagutia marina S.Ueno, 1955

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
-	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリ

準絶滅危惧(NT)



撮影者(提供者): 公益財団法人ホシザキグリーン財団

選定理由

潮間帯に生息するミズギワゴミムシで、全国的な希少種である。県内の生息状況は不明な点が多いが、限られている可能性が高い。

概要

体長5.0mm前後。体は扁平で背面に鈍い青色の金属光沢がある。海浜に生息する。国内では北海道、本州、四国、九州、国外ではサハラ以南に分布する。これまでのところ本州の日本海側では島根県のみで記録がある。

参考文献

林 成多 (2015) 島根県の海岸に生息する昆虫。ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (14): 1-120.
端山 武 (2010) 島根県益田市喜阿弥海岸からのウミミズギワゴミムシ (コウチュウ目オサムシ科) の記録。ホシザキグリーン財団研究報告, (13): 147-148.

県内での生息地域・生息環境

県西部および東部の島根半島の海岸で記録がある。生息地は、砂浜上に礫が堆積するような環境や礫が多い河口である。

存続を脅かす原因

海岸の開発、海岸浸食、砂浜への自動車や重機の乗り入れ。
(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

コウチュウ目コガシラミズムシ科

マダラコガシラミズムシ

Haliplus sharpi Wehncke, 1880

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
-	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリ

絶滅危惧Ⅱ類(VU)



撮影者(提供者): 公益財団法人ホシザキグリーン財団

選定理由

県内での記録が少なく、また生息地での個体数も少ない。

概要

体長3.3-3.8mm。幼虫はシャジクモ類を食べることが知られているが、県内では確認されていない。生息地は溜池や水田などの止水域であるが、生息場所の条件など生態面で不明な点が多い。国内では本州、四国、九州、国外では中国に分布する。

参考文献

林 成多 (2011) 島根県の水生甲虫。ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (1): 1-117.
林 成多 (2020) 改定 島根県の水生甲虫(1)。ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (25): 1-84.
Hayashi, M., T. Iwata and H. Yoshitomi (2023) Revision of the family Haliplidae (Insecta, Coleoptera) in Japan, Zookeys, 1168: 267-294.
中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之 (2020) 「ネイチャーガイド 日本の水生昆虫」, 文一総合出版。

県内での生息地域・生息環境

県東部や隠岐諸島で記録がある。灯火に飛来した記録が多く、水中から得られた場合でも少数個体のみ場合が多い。

存続を脅かす原因

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。
(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

コウチュウ目コツブゲンゴロウ科

ムツボシツヤコツブゲンゴロウ

Canthydrus politus (Sharp, 1873)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類(VU)



選定理由

県内での生息地がきわめて限定されている。

概要

体長2.4–2.6mm。成虫は小型で背面に光沢があり、鮮やかな斑紋を持つ。水生植物の豊富な止水域に生息する。国内では本州、四国、九州、国外では中国に分布する。

参考文献

青木新吾・川野敬介(2010) 島根県2例目となるムツボシツヤコツブゲンゴロウの記録。(13): 82.
林 成多(2011) 島根県の水生甲虫。ホシザキグリーン財団研究報告特別号。(1): 1-117.
林 成多(2020) 改定 島根県の水生甲虫(1)。ホシザキグリーン財団研究報告特別号。(25): 1-84.
中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之(2020)「ネイチャーガイド 日本の水生昆虫」, 文一総合出版。

県内での生息地域・生息環境

県東部や西部で記録がある。1950年代に松江市の市街地で記録されていたが、その後記録は途絶え、2009年と2018に県西部で再確認された。発見された地点では、継続して生息が確認できず、一時的な生息であったと考えられる。

存続を脅かす原因

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

コウチュウ目ゲンゴロウ科

オニギリマルケシゲンゴロウ

Hydrovatus onigiri Watanabe & Biström, 2022

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内の生息地は局地的である。

概要

日本産の「マルケシゲンゴロウ」は未記載種であることが判明したため、2022年に新種として記載され、和名も変更となった。体長2.4–2.7mm前後。体型は卵形で背面を微細な点刻と網目状の印刻が覆う。コマルケシゲンゴロウに似るが、体長はより大きく、点刻と網目状印刻の形状が異なる。同じ大きさのサメハダマルケシゲンゴロウとは前胸腹

参考文献

林 成多(2020) 改定 島根県の水生甲虫(1)。ホシザキグリーン財団研究報告特別号。(25): 1-84.
中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之(2020)「ネイチャーガイド 日本の水生昆虫」, 文一総合出版。
Watanabe, K., Biström, O. (2022) A new species of the genus *Hydrovatus* Motschulsky (Coleoptera: Dytiscidae) from Japan. The Coleopterists Bulletin 76: 115-121.

板突起の形状で区別できる。水生植物の多いため池の浅瀬や放棄水田など、やや富栄養な水域をおもな生息地としている。本州、四国、九州、対馬、種子島に分布する。

県内での生息地域・生息環境

ため池や放棄水田に生息している。

存続を脅かす原因

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

コウチュウ目ガムシ科

エゾコガムシ

Hydrochara libera (Sharp, 1884)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧(NT)



選定理由

県内での記録が少なく、また生息地での個体数も少ない。

概要

体長16–18mmで、コガムシに非常に似た種であるが、脚と体腹面が黒いことや上翅基部の点刻の違いで容易に区別される。北海道など寒冷な地域に多く分布し、一年中水を張った休耕田や湿地などの植生が豊かな水深の浅い水域に選好性を示す。国内の分布は北海道、本州、九州で、国外からは朝鮮半島、中国、ロシア極東地域から記録されている。

参考文献

林 成多(2011) 島根県の水生甲虫。ホシザキグリーン財団研究報告特別号。(1): 1-117.
林 成多(2020) 改定 島根県の水生甲虫(1)。ホシザキグリーン財団研究報告特別号。(25): 1-84.
中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之(2020)「ネイチャーガイド 日本の水生昆虫」, 文一総合出版。

県内での生息地域・生息環境

県中部で確認されている。一年中水を張った休耕田や湿地に生息する。

存続を脅かす原因

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

(執筆: 林 成多)

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

情報不足 (DD)

コウチュウ目シデムシ科

ヤマトモンシデムシ

Nicrophorus japonicus Harold, 1877

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

準絶滅危惧(NT)



選定理由

平地性の種であり、近年の記録も多くない。

概要

体長14-25mm前後。背面は黒色で上翅に赤色の鮮やかな4斑紋がある。後脛節が曲がるのが特徴。成虫は灯火に飛来する。国内では本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国、モンゴルに分布する。

参考文献

林 成多 (2021) 宍道湖グリーンパークにおけるヤマトモンシデムシの記録。ホシザキグリーン財団研究報告, (24): 312.

県内での生息地域・生息環境

島根県東部の平野部や沿岸部で記録がある。宍道湖西岸の宍道湖グリーンパークで行っている灯火調査では近年も飛来が確認されているが、飛来する頻度や個体数は少ない。

存続を脅かす原因

本種の減少原因は不明な点が多い。原野的な環境の減少や農業形態(畑作)の変化によって、生息環境や餌資源が減少している可能性がある。(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

コウチュウ目ハネカクシ科

ウマヅライソハネカクシ

Halorhadinus sawadai Maruyama et Hayashi, 2009

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

基準標準産地

環境省カテゴリ

情報不足(DD)



選定理由

自然度の高い磯浜海岸に生息する。県内の生息状況は不明な点が多いが、生息地が限られている可能性が高い。

概要

体長4.6-5.6mm。体は細長く、扁平。イソハネカクシ属の中ではきわめて大型で、潮間帯性のハネカクシとしても最大級。海岸に生息し、地下数10cm程度の潮間帯の磯間に棲む。2006年に島根県内で発見され、新種として記載された。日本固有種で、本州、四国に分布する。

参考文献

林 成多 (2013) 島根県の海岸性甲虫。ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (9): 1-98.
林 成多 (2015) 島根県の海岸に生息する昆虫。ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (14): 1-120.
Maruyama, M. and M. Hayashi (2009) Description of the intertidal aleocharine *Halorhadinus sawadai* sp. n. from Japan, with notes on the genus *Halorhadinus* Sawada, 1971. *Koleopterologische Rundschau*, 79: 71-82.
Ono, H. and M. Maruyama (2014) Five new species of the intertidal genus *Halorhadinus* Sawada, 1971 (Coleoptera, Staphylinidae, Aleocharinae) from Japan. *ESAKIA*, (54): 41-50.

県内での生息地域・生息環境

島根半島の磯浜海岸に生息する。島根県内ではタイプシリーズ以降の記録が無い。

存続を脅かす原因

磯浜の開発、重油などによる水質汚染。

(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

コウチュウ目マルハナノミ科

ツマグロマルハナノミ

Scirtes tsumaguro M. Sato et Chujo, 1972

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):端山武

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

—



選定理由

汽水域に生息する特異なマルハナノミで、県内での生息地は限られている。

概要

体長3mm前後。成虫の体は細長い楕円形で、背面は黄褐色だが翅端部が黒い。後肢で飛躍する。海岸や河口のヨシ原などに生息する。日本固有種で本州、九州、南西諸島に分布する。

参考文献

林 成多 (2012) 島根県松江市大橋川産のツマグロマルハナノミについて。ホシザキグリーン財団研究報告, (15): 248.
林 成多 (2013) 島根県の海岸性甲虫。ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (9): 1-98.
林 成多 (2015) 島根県の海岸に生息する昆虫。ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (14): 1-120.
Yoshitomi, H. (2005) Systematic revision of the family Scirtidae of Japan, with phylogeny, morphology and bionomics (Insecta: Coleoptera, Scirtoidea). *Monographic Series*, (3): 1-212. Japanese Society of Systematic Entomology.

県内での生息地域・生息環境

島根県東部の大橋川のヨシ原に生息する。島根県内には汽水域のヨシ原がある場所は限られており、大橋川は其中でももっとも規模が大きい。

存続を脅かす原因

河川敷や海岸部の改修、汽水域のヨシ原の消失。

(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

コウチュウ目マルハナノミ科

ホソキマルハナノミ

Elodes elegans Yoshitomi, 1997

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

山地溪流の限られた微環境に生息するため。

概要

体長3.8-4.9mm。山地溪流に生息し、幼虫は水生。山際から湧水が染み出しているような場所に生息する。日本固有種で本州、四国、九州に分布し、産地は太平洋側に多い。

参考文献

林 成多 (2011) 島根県の水生甲虫。ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (1): 1-117.
林 成多 (2020) 改定 島根県の水生甲虫(1)。ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (25): 1-84.
林 成多・門脇久志・松田隆嗣・深谷 治・近見芳恵 (2013) 隠岐諸島における昆虫類分布調査 (2009-2012年調査のまとめ)。ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (8): 1-73.
Yoshitomi, H. (1997) A revision of the Japanese species of the genera *Elodes* and *Sacodes* (Coleoptera, Scirtidae). *Elytra*, Tokyo, 25(2): 349-417.

県内での生息地域・生息環境

県東部および隠岐諸島で確認されている。頻発する大雨の影響により、かつて生息が確認された産地での確認が難しくなっている。

存続を脅かす原因

山地溪流の開発。大規模な土砂災害。

(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

コウチュウ目クワガタムシ科

オニクワガタ

Prismognathus anglaris Waterhouse, 1874

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):福井修二

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

高標高地のブナ林帯に生息しているが、生息域が限定されており、記録も少ない。

概要

体長はオス14-19mm、メス15-18mm。体は黒色。オスも大あごは短く、基部と先端部に歯を持つ。成虫は7-9月に出現し、倒木上に見られるほか灯火に飛来することが知られている。産卵は含水率の高い倒木や立ち枯れに行われ、幼虫は材を摂食し2年で成熟して夏に羽化する。羽化後は成虫越冬せず、すぐに材から脱出して活動し、活動を始めた成虫は殆ど何も後食せず、幼虫の食樹、産卵場所である倒木上を徘徊し、交尾、産卵し、1~数週間で死亡するという。

参考文献

福井修二 (2004) オニクワガタの採集記録。すかしば, 52:9.
皆木宏明 (2021) 島根県東部で採集されたオニクワガタ (クワガタムシ科) の標本記録。島根県三瓶自然館研究報告, 19: 125.
山田 学 (2003) 匹見町におけるオオチャイロハナムグリの採集記録。すかしば, 51: 16.

県内での生息地域・生息環境

県西部の冷温帯林で採集されており、大木の樹洞下部にたまった堆積物から、死骸も含め多数見つかった例がある。また、県東部で採集された古い記録も確認されている。

存続を脅かす原因

森林伐採による生息環境の消失。

(執筆: 福井 修二)

情報不足 (DD)

コウチュウ目クワガタムシ科

マダラクワガタ

Aesalus asiaticus Lewis, 1883

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):福井修二

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

山地性の種で、採集記録も多くない。

概要

体長オス4-7mm、メス4-6mm。厚みのある長楕円形で小さく、一般的なクワガタムシらしくない体型をしている。背面は褐色で黒色の棍棒状の毛が不規則に叢生にする。山地の広葉樹林に生息し、成虫は早春から初夏にかけて出現する。成虫が餌を摂食することは観察されていない。幼虫は広葉樹の朽木を摂食して成長し、2年目の秋に羽化して材内で成虫越冬する。数世代にわたって1本の朽木内で発生を繰り返すこともある。北海道、本州、四国、九州に分布。

参考文献

加藤重和・椋木博昭 (2003) 安蔵寺山の甲虫。すかしば, 51: 1-8.
山田 学 (1999) 匹見町の甲虫採集記録。すかしば, 47: 9-18.

県内での生息地域・生息環境

県東部・西部の中国山地、三瓶山周辺、隠岐の島の冷温帯及び、それよりやや標高の低い広葉樹林帯において、朽木中から採集されることが多い。

存続を脅かす原因

森林伐採や、道路開設などによる生息域する森林の消失や、生息地域の乾燥化などによる環境悪化。

(執筆: 福井 修二)

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

情報不足 (DD)

コウチュウ目クワガタムシ科

ネブトクワガタ

Aegus laevicollis E. Saunders, 1854

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

平野部から低山帯で生息するが、採集記録は少ない。

概要

体長オス14-33mm、メス14-25mm。体は全体黒色で上翅には太い隆条がある。主に平野部の雑木林や照葉樹林に生息する。成虫は6-10月に出現し、ナラ類の樹液に集まることが知られている。このほか、灯火に飛来することは知られている。産卵はシイ類の老木の樹洞等で育ち菌を作って蛹化、秋に羽化して越冬する。朽ち木のシロアリの活動で生成したフレーク質の部分によく産卵することが知られている。国内では本州、四国、九州、国外では台湾、中国に分布。

参考文献

門脇久志 (1983) 隠岐島の昆虫10. 隠岐島の甲虫類目録. すかしば, 20:3-20.
高木 実 (1974) 松江のネブトクワガタについて. すかしば, 3:5.
高橋寿郎・淀江賢一郎 (1996) 島根県昆虫文献目録5. 島根県のコガネムシに関する文献目録. すかしば, 43/44:27-41.
和田 博 (1950) 石見産昆虫目録. 津高生物誌, 1:3-21 (津和野高校生物学会)

県内での生息地域・生息環境

県東部の平野部や、隠岐での古い採集記録があるが、近年の記録はなく、生態等は良くわかっていない。

存続を脅かす原因

樹洞を形成するような古い大径木が多く残存するような森林伐採など生息環境の消失。

(執筆者: 福井 修二)

情報不足 (DD)

コウチュウ目センチコガネ科

ムネアカセンチコガネ

Bolbocerosoma nigroplagiatum (Waterhouse, 1875)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

選定理由

生息密度が低く、希少であるため。

概要

体長9-14mm。体色は黄赤褐色で光沢があり、頭部、小楯板、上翅後方などは黒色。前頭の中央にオスは小角状突起、メスは横隆起がある。成虫は5-10月に出現する。平地の芝生が広がる公園や河川敷、山地の放牧地などで発生する。古い牛糞などに来集、灯火にもよくくる。朝鮮半島に分布し、国内では北海道、本州、四国、九州、佐渡島、伊豆諸島、壱岐島に分布する。

参考文献

近木英哉 (1963) 島根県の昆虫目録Ⅲ鞘翅目(コガネムシ科).島根農科大学研究報告.12(A):24-31.
福井修二 (1994) 三瓶山の鞘翅目.島根昆虫研究会「三瓶山の昆虫相とその保全」:31-57.
和泉浩行 (1985) 赤来町の鞘翅目[II].すかしば,(24):5.
三宅 登・福井修二・金子信博・片桐成夫 (1990) 島根大学農学部付属三瓶演習林の鞘翅目.山陰地域研究(森林資源),(6):175-188.
上野俊一・黒沢良彦・佐藤正孝 (1989) 「原色日本甲虫図鑑(II)」.514pp. 保育社.

県内での生息地域・生息環境

県東部の平地および三瓶山の草原で、おもに灯火で採集されている。

存続を脅かす原因

草原の消失。

(執筆者: 鈴木 謙治)

情報不足 (DD)

コウチュウ目コガネムシ科

ツノコガネ

Liatongus minutus (Motschulsky, 1860)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

選定理由

生息地が局限されているため。

概要

体長7-10mm。光沢の無い黒色か黒褐色。オスは、頭部に長く反った角があり、前胸背板には両側と平行に縦の隆起があるが、小型なオスでは目立たない。メスの前胸背板には逆U字型の隆起がある。上翅は平圧される。成虫は、6-10月に発生する。山地の日向にある獣糞に集

参考文献

近木英哉 (1963) 島根県の昆虫目録Ⅲ鞘翅目(コガネムシ科).島根農科大学研究報告.12(A):24-31.
福井修二 (1994) 三瓶山の鞘翅目.島根昆虫研究会「三瓶山の昆虫相とその保全」:31-57.
野津幸夫 (1990) 三瓶山の食糞性コガネムシ.すかしば,(33):17.
高橋寿郎・淀江賢一郎 (1996) 島根県のコガネムシに関する文献目録.すかしば,(43/44):27-41.
上野俊一・黒沢良彦・佐藤正孝 (1989) 「原色日本甲虫図鑑(II)」.514pp.保育社.

まる。糞下に坑道を掘り、詰め込こんだ糞に産卵する。朝鮮半島、中国、台湾、インドシナ、ミャンマー、インド、ヒマラヤ、国内では北海道、本州、四国、九州、佐渡島、対馬に分布する。

県内での生息地域・生息環境

三瓶山および県東部の山間地の放牧地で採集されている。

存続を脅かす原因

生息地での牧畜形態の変化。

(執筆者: 鈴木 謙治)

情報不足 (DD)

コウチュウ目コガネムシ科

クロオビマグソコガネ

Aphodius (Acrossus) unifasciatus Nomura et Nakane, 1951

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 鈴木謙治

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内では、ホンシュウジカが生息する島根半島出雲北山山系にのみ生息する。

概要

体長7-9mm。体は黒色で上翅が黄土色。上翅の中央より下方に黒帯紋がある。成虫はおもに3月下旬から5月下旬にかけて出現し、秋季にも出現する。日陰にある新しいシカの糞に好んで集まり、糞内に潜って摂食する。日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。

参考文献

児玉洋 (1985) 出雲・北山のホンシュウジカの糞に集まる食糞コガネ, すかしば, (23): 19-20.
近重克幸・福井修二・鈴木謙治・山崎克友 (1988) 鶏鷲半島・ホンシュウジカの糞に集まる食糞性コガネムシ, すかしば, (30): 45-48.
高橋寿郎・淀江賢一郎 (1996) 島根県のコガネムシに関する文献目録, すかしば, (43/44): 27-41.
上野俊一・黒沢良彦・佐藤正孝 (1989) 「原色日本甲虫図鑑(II)」. 514pp. 保育社.

県内での生息地域・生息環境

本種は、シカの糞に依存しているため、出雲北山山系のホンシュウジカ生息域にのみ分布する。

存続を脅かす原因

シカの生息域の森林伐採や、シカの捕獲などによるシカの個体数の減少。

(執筆者: 鈴木 謙治)

情報不足 (DD)

コウチュウ目コガネムシ科

オオマグソコガネ

Aphodius (Colobopterus) quadratus Reiche, 1847

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 小早川誠

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内では特定の地域にのみ生息しており、放牧地等の減少に伴い、絶滅のおそれがある。

概要

体長8.0-12.5mm。光沢があり、上翅は黒色~黄褐色。上翅間室には点刻を散布し、側縁が縁取られ、第1間室基部が隆起する点で近縁種のニセオオマグソコガネと識別される。国内では北海道、本州、四国、九州に分布し、国外では朝鮮半島、サハリン、シベリア東部に分布する。草地環境や林内に生息し、家畜や野生獣の新鮮な糞に飛来する。

参考文献

福井修二 (1994) 三瓶山の昆虫相とその保全 (5) 三瓶山の鞘翅類, 島根県昆虫研究会 : 31-55.
広島県環境県民局自然環境課 (2022) 「レッドデータブックひろしま2021」6昆虫類. <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/478774.pdf>. (2025年11月19日閲覧)
川井信夫・堀 繁久・河原正和・稲垣政志 (2008) 日本産コガネムシ上科図説 第1巻 食糞群, 197pp. 昆虫文献六本脚, 東京.
木内 信 (2000) 7月の隠岐で採集した昆虫. 鯉角通信, 1 : 41-42.
小早川誠 (2023) 興出雲町で確認したマグソコガネ属3種. すかしば, 70 : 58-59.

県内での生息地域・生息環境

県内での生息地は局所的で、これまでに3カ所での記録がある。また、近縁種のニセオオマグソコガネと共に得られている採集地も1カ所存在する。

存続を脅かす原因

放牧地、自然草地の減少。駆虫剤の影響。

(執筆者: 小早川 誠)

情報不足 (DD)

コウチュウ目コガネムシ科

ニセオオマグソコガネ

Aphodius (Colobopterus) propraetor Balthasar, 1932

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 小早川誠

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内では特定の地域にのみ生息しており、放牧地等の減少に伴い、絶滅のおそれがある。

概要

体長8.0-12.5mm。光沢があり、上翅は黒色~赤褐色。上翅間室には点刻がなく、間室側縁の縁取りを欠く点で近縁種のオオマグソコガネと識別される。国内では本州西部、四国、九州、対馬に分布し、国外では中国、朝鮮半島、東シベリアに分布する。放牧地や自然草地などの開放的環境に生息し、新鮮な大型哺乳類等の糞に飛来する。

参考文献

川井信夫・堀 繁久・河原正和・稲垣政志 (2008) 日本産コガネムシ上科図説 第1巻 食糞群, 96pp. 昆虫文献六本脚, 東京.
木内 信 (2000) ニセオオマグソコガネ (新称) *Aphodius (Colobopterus) propraetor* Balthasar の日本における分布. KOGANE, 1 : 41-42.
小早川誠 (2023) 興出雲町で確認したマグソコガネ属3種. すかしば, 70 : 58-59.

県内での生息地域・生息環境

本種は2023年に県内で初めて記録された種であり、これまでのところ県東部1カ所でのみ生息が確認されている。また、採集地では近縁種のオオマグソコガネと共に得られている。

存続を脅かす原因

放牧地、自然草地の減少。駆虫剤の影響。

(執筆者: 小早川 誠)

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅
危惧Ⅰ類

絶滅
危惧Ⅱ類

準絶滅
危惧

情報不足

情報不足 (DD)

コウチュウ目コガネムシ科

ケブカマグソコガネ

Aphodius (Brachiaphodius) eccoptus Bates, 1889

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):小早川誠

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

2025年時点において、県内での生息地は1カ所のみであり、絶滅が危惧される。

概要

体長7.5-9.4mm。暗褐色から黄褐色の体色を持つ食糞性コガネムシであり、他のマグソコガネと比較して動きが敏速なことから容易に識別される。初夏から初秋まで活動し、放牧地や林内から草原まで幅広く生息する。牛糞などに集まり、灯火にも飛来する。国内では本州、四国に分布する。

参考文献

川井信夫・堀 繁久・河原正和・稲垣政志(2008)日本産コガネムシ上科図説 第1巻 食糞群. 96pp. 昆虫文献六本脚, 東京.
小早川誠(2023)奥出雲町で確認したマグソコガネ属3種. すかしば, 70: 58-59.

県内での生息地域・生息環境

本種については比較的多くの記録があるが、島根県では2023年に初めて記録された種であり、2025年時点での確実な生息地は県東部の1カ所のみである。県内および中国地方における分布実態の解明と生息地の保全が急務である。

存続を脅かす原因

放牧地の減少。畜産形態の変化による糞資源の質的・量的変化。駆虫剤の影響など。

(執筆者:小早川 誠)

情報不足 (DD)

コウチュウ目コガネムシ科

セスジカクマグソコガネ

Rhyparus azumai Nakane, 1956

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

生息密度が低く希少であるため。

概要

体長5-6.5mm。体色は黒褐色から黒色で光沢を欠く。頭頂に4縦隆条、前胸背板に6縦隆条、上翅に各4縦隆条をそなえる。成虫はおもに5-9月に出現する。灯火にあつまる。日本固有種で、本州、伊豆諸島、四国、九州、南西諸島に分布する。

参考文献

福井修二(1994)瑞穂町の甲虫類. 島根昆虫研究会「島根県瑞穂町の昆虫類」:27-37
林長閑編(1985)「生物大図鑑 昆虫II 甲虫」.399pp.世界文化社
三宅 登・福井修二・金子信博・片桐成夫(1990)島根大学農学部付属三瓶演習林の鞘翅目.山陰地域研究(森林資源),(6):175-188.
高橋寿郎・淀江賢一郎(1996)島根県のコガネムシに関する文献目録.すかしば,(43/44):27-41.
上野俊一・黒沢良彦・佐藤正孝(1989)「原色日本甲虫図鑑(II)」.514pp.保育社.

県内での生息地域・生息環境

三瓶山北の原の下に位置するスギ人工林や西中国山地東端の二次林で採集されている。

存続を脅かす原因

生息地の森林伐採。

(執筆者:鈴木 謙治)

情報不足 (DD)

コウチュウ目コガネムシ科

オキチャイロコガネ

Sericania kadowakii Nakane, 1983

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):島田孝

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

生息地が局限されており、また、生息密度も少なく希少であるため。

概要

体長7-8mm。やや卵形でわずかに扁平。背面は暗褐色から赤褐色、腹面は赤褐色、触角は黄褐色。本種は、ナエドコチャイロコガネ*S.mimica* Lewisに近い種とされるが、体型が小さくて頑丈、背面の点刻が密で光沢が鈍いことなどで区別される。成虫は5-6月に出現。林内の低空を飛翔して移動する。隠岐(島後)にのみ分布する。

参考文献

門脇久志(1983)隠岐島の甲虫目録.すかしば,(20):3-20.
Nakane T.(1983)New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent Regions.xxxvi.Frag.Coleop. Pars. 35/37:141.
高橋寿郎(1997)隠岐島のコガネムシに関する文献目録.すかしば,(45):41-48.

県内での生息地域・生息環境

隠岐(島後)の山林内に局所的に生息。灯火に飛来する。

存続を脅かす原因

生息地の山林の伐採。

(執筆者:鈴木 謙治)

情報不足 (DD)

コウチュウ目コガネムシ科

オオタケチャイロコガネ

Sericania ohtakei Sawada, 1955

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

—

No Image

選定理由

生息密度も少なく希少であるため。

概要

8.5—11.5mm。やや細長い卵形で少し扁平。背面は暗褐色から赤褐色、腹面は暗褐色、脚部は赤褐色、触角は黄褐色。背面は光沢がある。腹面は後胸腹板中央部と腹節に光沢がある。中国地方の個体群は、色彩が暗く、腹節の光沢を欠く、頭盾の前縁に沿った深い横溝がないなどの特徴がある。本州（関東地方以西）に分布する。

参考文献

高橋寿郎・淀江賢一郎 (1996) 島根県のコガネムシに関する文献目録。すかしば, (43/44):27-41.
Y.Miyake and S.Nakamura(1995) Descripton of a new species of genus *Sericania* preserved in the Hiwa Museum for Natural History(Insecta:Coleoptera:Scarabaeidae).HIBAKAGAKU,(164):9-12

県内での生息地域・生息環境

県中央部の山林が残る江の川沿いで採集された記録があるが、詳細は不明。

存続を脅かす原因

生息地の山林の伐採。

特記事項

本種は、「改訂しまねレッドデータブック2004」では、ヒバチャイロコガネ *Sericania Hirosei* Y. Miyake et Nakamura, 1995と記載していたが、分類学的変更によりオオタケチャイロコガネとした。

(執筆: 鈴木 謙治)

情報不足 (DD)

コウチュウ目コガネムシ科

アオアシナガハナムグリ

Aleurosticus subopacus (MotschulskY 1860)

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

—



撮影者(提供者): 福井修二

選定理由

島根県での生息地域は局地的で、これまでの採集記録も少ない。

概要

体長15—22mm。背面は光沢の無い、緑色ないし銅褐色。前背胸および上翅に白点紋を散布し、上翅には弱い2本の隆条をもつ。山地の落葉広葉樹林に分布する。成虫は6~8月に出現して、林縁部にある灌木等の花等にも集まる。メスは朽木に産卵し、幼虫はその材を摂食して育つ。国内では北海道、本州、四国、九州。国外ではシベリア東部、朝鮮半島に分布。

参考文献

環境庁編 (1980) 「日本の重要な昆虫類・中国版」第2回自然環境保全基礎調査。
加藤重和・林 成多 (2007) 安蔵寺山の甲虫。すかしば, 51: 1-8.
高橋寿郎・淀江賢一郎 (1996) 島根県昆虫文献目録5。島根県のコガネムシに関する文献目録。すかしば, 43/44: 27-41.

県内での生息地域・生息環境

三瓶山麓や県西部の中国山地の標高が高く、自然の保たれた森林から記録されている。

存続を脅かす原因

生息地の森林伐採などによる生息環境の消失。

(執筆: 福井 修二)

情報不足 (DD)

コウチュウ目チビドロムシ科

ババチビドロムシ

Mexico masamii (M. Sato, 2001)

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

—



撮影者(提供者): 公益財団法人ホシザキグリーン財団

選定理由

自然度の高い岩礁海岸に生息する。県内の生息状況は不明な点が多いが、生息地が限られている可能性が高い。

概要

体長2.0mm前後。体は楕円形。背面は黒色で銀色の毛が生えている。本州、四国、九州、佐渡、南西諸島に分布する。成虫は岩礁に生息する。幼虫は岩礁の岩の隙間に生息している。

参考文献

林 成多 (2015) 島根県の海岸に生息する昆虫。ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (14): 1-120.
河上康子・林 成多 (2007) 日本海沿岸の海岸性甲虫類の研究 (2) 島根半島。ホシザキグリーン財団研究報告, (10): 37-76.
Yoshitomi, H. (2019) Review of the Asian Thaumastodinae (Coleoptera, Byrrhoidea, Limnichidae), with a phylogeny of the genera. European Journal of Taxonomy 583: 1-45.

県内での生息地域・生息環境

島根半島や石見地方の岩礁海岸に生息する。

存続を脅かす原因

岩礁地帯の港湾開発、重油などによる水質汚染。

(執筆: 林 成多)

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

情報不足 (DD)

コウチュウ目ヒラタドROMシ科

ヒゲナガヒラタドROMシ

Nipponneubria yoshitomi Lee et M. Sato, 1996

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧(NT)



選定理由

山地溪流の限られた条件の環境に生息するため。

概要

体長2.3-2.8mm。触角のほとんどの節、頭部、前胸背板、小盾板が黒色で、上翅は濃い茶褐色。雄の触角は鋸歯状で長く、体長より僅かに短い程度。日本固有種で本州に分布する。

参考文献

林 成多 (2009) 日本産ヒラタドROMシ科概説。ホシザキグリーン財団研究報告, (12): 35-85.

県内での生息地域・生息環境

県東部で確認されている。山際から染み出す湧水によって涵養された湿地状の場所において、幼虫は落ち葉や石に張り付いている。

存続を脅かす原因

山地溪流の開発、大規模な水害。

(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

コウチュウ目タマムシ科

クロマダラタマムシ

Nipponobuprestis qrerceti (E. Saunders, 1873)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):福井修二

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内で生息が確認された場所は局所的で個体数も少ない。

概要

体長17-28mm。体色は赤味を帯びた黒色で金属光沢があり、上翅には縦の隆条と多数の白色凹陥紋を散布する。平地から低山地にかけて生息するが、全国的にも個体数は多くない。成虫は5-7月に出現する。成虫はエノキの葉を摂食する。幼虫はエノキ大木の枯死木や、生立木の枯死した枝部分を摂食することが知られている。材の中で育った成虫がそのまま越冬している例が知られている。本州、四国、九州。国外では中国に分布。

参考文献

栗原 隆・吉武 啓・中谷至伸・吉松慎一 (2010) 農業環境技術研究所報告, 27: 141-160
黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編 (1985) 「原色日本甲虫図鑑(Ⅲ)」, 500pp. 保育社。
大桃定洋・福富宏和 (2013) 「日本産タマムシ大図鑑」208pp.むし社。

県内での生息地域・生息環境

県東部平野部で採集されているが、その場所の環境状況等は不明。

存続を脅かす原因

本種の繁殖源となるエノキの大木が保残されることが必要。

(執筆: 福井 修二)

情報不足 (DD)

コウチュウ目コメツキムシ科

カドワキツヤミズギワコメツキ

Neohyponus kadowakii Kishii, 1976

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):門脇久志

島根県固有評価

基準標本産地

環境省カテゴリー

—



選定理由

雲南市大東町で採集され記載された種であるが、その後の記録がなく分布など不明である。基準標本産地であり再確認し、生息環境を明らかにする必要がある。

概要

体長4.0mm前後。全体黒色で光沢があり、触角・上翅肩部は褐色を帯び、肢は黄赤色である。この仲間は微小である上に種類が多く判別が難しいとされる。本種の生態や国内での分布状況などは不明であったが、鳥取県大山で生息が確認された。

参考文献

門脇久志 (2014) カドワキツヤミズギワコメツキ。改訂しまねレッドデータブック2014動物編。
Kishii, T. (1991) New Negastrinae with some notes. Some new forms of Elateridae in Japan (X). Bulletin of the Heian High School, (20): 17-45.

県内での生息地域・生息環境

本種は、1967年に大東で採集されたが、その後の記録がなく微小な種であるため発見し難く、同定が難しいことも一因と思われる。原記載以降には鳥取県大山で生息が確認されおり、県内でも再確認の可能性が高い。

存続を脅かす原因

現時点では生息状況が明らかでなく不明。

(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

コウチュウ目ホタル科

ヒメボタル

Luciola parvula Kiesenwetter, 1874

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

—



選定理由

生息地が局地的で、移動性が乏しく、環境改変による影響を受けるため。

概要

体長5—9mmで、複眼が大きく、触角は短い。上翅は全体に黒色で、前胸背板は大部分が桃赤色で、中央前方に黒斑がある。メスは後翅が退化していて、体が幅広く、オスと体型が大きく異なる。雌雄ともに発光し、閃光的な光を放つ。成虫は6~7月に出現し、出現期間は短い。幼虫は陸生で貝類などを捕食する。日本固有種で、本州、四国、九州、五島列島に分布する。体長6mm前後の小型タイプと体長8mm前後の大型タイプが知られるが、島根県からは後者のタイプしか見つかっていない。

参考文献

川野敬介・皆木宏明(2012) 島根県におけるホタル類の分布記録。ホシザキグリーン財団研究報告, (15): 235-247.

県内での生息地域・生息環境

隠岐諸島や県全域で確認されている。スギなどの生えた古い社寺林や雑木林に生息する。林床は湿っていることが重要である。

存続を脅かす原因

森林の減少や林床の乾燥化。

(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

コウチュウ目ホタル科

スジグロボタル

Pristolytus sagulatus Gorham, 1883

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

—



選定理由

生息地が局地的であり、希少であるため。

概要

体長7mm前後。オスの触角は鋸歯状。上翅は全体に鮮やかな赤色で、周縁と会合部は黒色、黒色縦条がある。前胸背板は茶褐色。成虫になると発光器が痕跡的で、ほとんど発光することはない。幼虫は陸生であるが、湿地や溪流付近に生息し、水中に入って淡水貝類を捕食することがある。日本固有種で、千島列島、北海道、本州、九州、奄美大島に分布し、複数の亜種に分けられている。

参考文献

川野敬介・皆木宏明(2012) 島根県におけるホタル類の分布記録。ホシザキグリーン財団研究報告, (15): 235-247.

県内での生息地域・生息環境

県東部の湿地で確認されている。県内では幼虫は未確認である。

存続を脅かす原因

湿地などの生息できる環境の減少。

(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

コウチュウ目ヒラタムシ科

ルリヒラタムシ

Cucujus mniszewski Grouvelle, 1874

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):上野しんご

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

—



選定理由

自然の良く保たれたブナ帯など、高齢級の広葉樹落葉に生息するが、中国地方での生息は少なく、県内の分布も局所的。

概要

体長20—27mm。きわめて扁平な体型をしている。頭部と胸部は黒色、上翅は鈍いルリ色をしている。ヒラタムシ類は新しく発生した倒木の樹皮下に生息する昆虫類などを捕食する。他県の報告では、越冬成虫は春季に、新しく倒れたブナなどの大木の倒木に集まり、産卵・孵化した幼虫は樹皮下で他の昆虫類を捕食して生育し、秋季には羽化して成虫で越冬する生活環を持つことが知られている。北海道、本州、四国、九州。海外では中国大陸、台湾島、インド、ラオス、タイ。

参考文献

黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編(1985)「原色日本甲虫図鑑(Ⅲ)」, 500pp. 保育社。
山田 学(2004) 美濃郡匹見町でのヒラタムシ類の採集記録。すかしば, 52: 12-13

県内での生息地域・生息環境

県西部の高齢ブナ林やその周辺域からの記録がある。

存続を脅かす原因

生息確認地周辺の冷温帯林で、高齢級森林の大規模伐採など本種の生息に適する環境の消失。

(執筆: 福井 修二)

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

情報不足 (DD)

コウチュウ目ゴミムシダマシ科

キロテントウゴミムシダマシ

Leiochrodes mashidai Nakane, 1963

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

基準標準産地

環境省カテゴリー

—

No Image

選定理由

島根県が本種の基準標準産地となっている。1954年の採集・記載以降、本県の生息状況等について十分な調査はなされていない。

概要

体長2-3mm。体は半球形で全体が光沢のある黄褐色をしている。良く似たテントウゴミムシダマシより小型で、触覚基部が黄褐色であることが区別点。上翅裏側にある顆粒列が透けて見え、点刻列のように見えることも特徴。海岸に生息するほか、内陸部でも大きな河川の河川敷で、枯草の下などいることが記録されており、また、集団で成虫越冬している例が報告されている。本州、九州に分布する。国外では朝鮮半島に分布している。

参考文献

秋田勝己・益本仁雄 (2016) 「日本産ゴミムシダマシ大図鑑」302pp.むし社
黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編 (1985) 「原色日本甲虫図鑑 (Ⅲ)」, 500pp. 保育社。

県内での生息地域・生息環境

1954年に県西部の砂質海岸から採集されて記載された。本県の記録は十分な調査はなされておらず、生息状況等は不明。

存続を脅かす原因

開発等による生息確認地の環境の消失。

(執筆者: 福井 修二)

情報不足 (DD)

コウチュウ目ゴミムシダマシ科

オキツヤヒサゴゴミムシダマシ

Misolampidius okiensis Nakane, 1983

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

隠岐諸島固有種

環境省カテゴリー

—



撮影者(提供者): 島田孝

選定理由

隠岐(島後)から記載されたツヤヒサゴゴミムシダマシで隠岐諸島固有種であるが、分布など詳しい状況は不明である。

概要

体長13-15mm前後。全体がほぼ黒色。体形は、やや扁平で細長いずん胴型。背面は滑らかで光沢がある。上翅には明瞭な条溝があり、間室はやや大きく密な点刻列がある。ツヤヒサゴゴミムシダマシ類は、オサムシ類と同様に後翅が退化し移動能力が低く、とくに島嶼での種の分

参考文献

秋田勝己・益本仁雄 (2016) 「日本産ゴミムシダマシ大図鑑」302pp.むし社。
門脇久志 (1991) 隠岐島の昆虫15. 隠岐島のゴミムシダマシ。すかしば, 35: 9-14。
三木孝人 (2023) オキツヤヒサゴゴミムシダマシの採集記録。すかしば, 70: 65
島田 孝 (2004) 隠岐自然館甲虫標本目録。すかしば, 52: 33-40。
吉富博之・林 成多 (2018) 隠岐諸島のゴミムシダマシ, ホシザキ研究報告, 21: 66-77。

化が著しい。幼虫も朽ち木を食べて育ち、成虫は繁殖源である朽ち木に來ているものが採集されることが多い。

県内での生息地域・生息環境

隠岐(島後)から記録されているが、朽木上で採集されたという情報のほかは詳細な生息状況は不明。島前地域ではこれまで記録はない。

存続を脅かす原因

朽ち木が形成される森林が維持されることが必要。このような森林の伐採。短い周期での森林伐採・利用も生息環境の維持が困難と思われる。

(執筆者: 福井 修二)

情報不足 (DD)

コウチュウ目カミキリムシ科

ベーツヒラタカミキリ

Eurypoda batesi Gahan, 1894

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



撮影者(提供者): 氏原靖志

選定理由

シイ類大径木の残存する照葉樹林に生息するが、個体数は少ない。

概要

体長26-34mm。体は扁平で光沢のある赤褐色。成虫は7-9月に出現する。夜行性で日中はスダジイなど寄生木の枯死部の隙間などに潜み、夜間にこれらの立枯れ木、倒木上を徘徊するほか、灯火にも飛来することが観察されている。関東以西の本州、四国、九州。海外では中国南西部、ラオスに分布。

参考文献

近木英哉 (1992) 江津市でベーツヒラタカミキリを採集。すかしば, 37/38: 66。
門脇久志 (1977) 隠岐島の昆虫3. 隠岐島のカミキリムシ。すかしば, 7: 15-38。
松田隆綱 (2009) ベーツヒラタカミキリの記録。すかしば, 57: 35。
氏原靖志 (2024) 島根県内で2023年に確認した主なカミキリ。すかしば, 71: 1-14。
山田 学 (1999) 匹見町の甲虫採集記録。すかしば, 47: 9-18。

県内での生息地域・生息環境

隠岐及び県東部から西部の低地から内陸部にかけて広域での採集記録があるが個体数は多くない。市街地周辺でも、灯火に飛来したものが得られた例があるが、これは社寺林に寄生樹種の老木が残存しているためと思われる。

存続を脅かす原因

繁殖に利用するシイ類の老木を有する照葉樹林の消失。また、貴重な繁殖木が多い生息場所である社寺林等では支障木、樹の空洞化等による倒伏危険木としての伐採。

(執筆者: 福井 修二)

情報不足 (DD)

コウチュウ目カミキリムシ科

オオクロカミキリ

Megasemum quadricostulatum Kraatz, 1879

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 氏原靖志

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

記録は県西部の山地の一部に限定され、少ない。

概要

体長は20-30mm程度。体色は黒褐色から黒色。褐色を帯びるのはオスのみ。触角長さはオスで体長1/2を優に超え、メスで体長の1/2以下。九州から北海道に分布。国外では樺太、シベリア東部、中国、朝鮮半島に分布。幼虫はモミなどのマツ類で育ち、成虫はモミなどの倒木、立ち枯れなどに集まる。また、灯火にも飛来する。

参考文献

藤田 宏・平山洋人・秋田勝己(2023)日本産カミキリムシ大図鑑(1),324pp.むし社。
林 成多(2010)島根県産カミキリムシ類の文献記録.ホシザキグリーン財団研究報告, 13:17-43。
山田 学(1999) 匹見町の甲虫採集記録.すかしば,(47):9-18。
淀江賢一郎(1988) 島根県昆虫文献目録2 島根県のカミキリムシに関する文献目録. すかしば,(30): 21-38。

県内での生息地域・生息環境

県西部匹見付近で確認されている。生息地は山地で食樹のモミ、ツガが点在する。県内でこのような場所は比較的少ない。県内の海岸近くの丘陵地にもモミは生育するが、低標高地で同種は確認されない。

存続を脅かす原因

生息地及びその周辺の木々の伐採などによる人為的な環境の改変。
(執筆: 氏原 靖志)

情報不足 (DD)

コウチュウ目カミキリムシ科

ケブカマルクビカミキリ

Atimia okayamensis Hayashi,1972

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 氏原靖志

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

県内の1カ所のみで確認されている(初確認2022年)。最近ほとんど見られなくなった。

概要

体長5-10mm程度。体色は灰色で黒い斑紋がある。触角長さは体長を越えない。県外では広島、岡山、香川、兵庫、大阪、京都、滋賀、愛知、静岡、山梨、長野、東京などで確認されている。分布はやや局所的で地域によっては少ない。国外では朝鮮半島に分布。幼虫の食樹はネズミサシのみ。成虫は3-5月と10-12月に出現し、ネズミサシの葉などをかじる。また、ネズミサシの樹皮下などで越冬する。

参考文献

藤田 宏・平山洋人・秋田勝己(2023)日本産カミキリムシ大図鑑(1),324pp.むし社。
林 成多(2010) 島根県産カミキリムシ類の文献記録.ホシザキグリーン財団研究報告, 13:17-43。
氏原靖志(2023) 島根県におけるケブカマルクビカミキリの記録.すかしば,(70):24-25。
氏原靖志(2024) 島根県内で2023年に確認した主なカミキリ.すかしば,(71):1-14。

県内での生息地域・生息環境

出雲市内の海岸寄りの丘陵部で確認。在来種の木々の多い雑木林の中にネズミサシが点在している場所となっている。ネズミサシの倒木、立ち枯れ、伐採木などがある場所に集まると推測される。

存続を脅かす原因

食樹のネズミサシの生育地は県内の沿岸に近い丘陵地や岩場の多い山地などになるが、丘陵部の生育地は宅地造成、工場建設、道路開発、農地への転用、植林等で減少している。

(執筆: 氏原 靖志)

情報不足 (DD)

コウチュウ目カミキリムシ科

クロソンホソハナカミキリ

Minostrangalia kurosonensis (Ohbayashi, 1936)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 坂野勇人

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

本州での分布記録は局限され、その個体数も少ないまれな種。県西部での一例の採集記録以降、追加記録が無く、生息状況は不明。

概要

体長14-18mm。体型は細長く、体背面はオレンジ色。成虫は7-8月に出現。本州での採集記録は少ない。成虫は晴天時の早朝、または夕刻にノブドウの花を好んで集まるほか、ノリウツギへの訪花も記録されている。ハイノキ、クロバイ、タンナサワフタギが寄主植物として知られている。本州、四国、九州に分布。

参考文献

林 成多(2010) 島根県産カミキリムシ類の文献記録.ホシザキグリーン財団研究報告, 13: 17-43。
中原龍雄(1988) 島根県におけるクロソンホソハナカミキリの記録.月刊むし, 207: 36。
日本鞘翅目学会編(1984)「日本産カミキリ大図鑑」565pp.講談社。

県内での生息地域・生息環境

県西部において8月にノブドウに訪花した個体が採集された採集記録以降、追加記録はない。

存続を脅かす原因

生息域の開発等による寄主植物を含む森林の消失。
(執筆: 福井 修二)

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅
危惧Ⅰ類

絶滅
危惧Ⅱ類

準絶滅
危惧

情報不足

情報不足 (DD)

コウチュウ目カミキリムシ科

ヒゲシロホソコバネカミキリ

Necydalis odai Hayashi, 1951

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 氏原靖志

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

ブナ帯に生息するが分布は局地的。全国的にも生息数は少ない。

概要

体長14—25mm。前翅が短小で後翅が露出する。体は黒色で、触角の第8~10節が白黄から黄褐色をしている。オスの上翅は翅端を除いて赤黄色。メスはほぼ黒色。成虫は7~8月に出現し、太いミズナラの立ち枯れ木や、生立木の枯死部に産卵のために集まる。繁殖源となる木はミズナラのみとされており、幼虫はこの材を摂食する。北海道、本州、四国、九州に分布。

参考文献

加藤重和・椋木博昭(2003) 安蔵寺山の甲虫。すかしば, 51: 1-8.
日本鞘翅目学会編(1984)「日本産カミキリ大図鑑」565pp. 講談社。

県内での生息地域・生息環境

西中国山地においてミズナラ大木に飛来した個体が採集されている。

存続を脅かす原因

繁殖源であるミズナラ老木を有する自然度の高い森林が、伐採による消失や、生息の環境が悪化すること。ブナ科樹木萎凋病(ナラ枯れ)被害拡大によるミズナラの急激な減少。

(執筆: 福井 修二)

情報不足 (DD)

コウチュウ目カミキリムシ科

ヨツボシカミキリ

Stenygrinus quadrinotatus Bates, 1873

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 小林和由

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧ⅠB類(EN)



選定理由

全国的に近年の報告が激減しており、県内でもその傾向がある。一方で、ある地域では継続的な発見があることから情報の収集が必要である。

概要

体長8—14mm。日本では北海道から南西諸島にかけて分布する。暗赤色で、上翅にある黄白色の4つの円紋が特徴であるが、それらが前後で連続する個体もいる。成虫の出現期は5—8月。昼夜活動し、クリなどの花に集まり、また灯火にも飛来する。幼虫は各種広葉樹の枝・材部に寄生する。

参考文献

小松 貴(2018) 絶滅危惧の地味な虫たち。318pp. 筑摩書房, 東京。
大林延夫・新里達也編著(2007) 日本産カミキリムシ。818pp. 東海大学出版会, 神奈川。

県内での生息地域・生息環境

近年では、雲南市において2022年および2024年のいずれも6月に灯火に飛来した個体を確認している(未発表)。このことから、生息環境が整えば個体数の回復にともない、発見報告が増えるものと思われる。

存続を脅かす原因

激減の原因ははっきりと分かっていないが、本種の繁殖には乾燥木材が必要であり、新原料として一定の伐採がされなくなったことが関係している可能性がある。

(執筆: 小林 和由)

情報不足 (DD)

コウチュウ目カミキリムシ科

クロサワヒメコバネカミキリ

Epania septemtrinalis Hayashi, 1968

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 氏原靖志

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

本州での分布は局所的で個体数も少ない。

概要

体長8—11mm。体色は黒色で鈍い光沢がある。上翅は短く、腹部背面の4分の1程度を覆い、後翅が露出する。脚には長い毛がある。暖帯から温帯林に生息し、成虫は6~8月に出現してクリ、ノリウツギ等の花に集まる。幼虫の食樹としてクマノミズキ、タブノキが知られており、他県の観察では、クマノミズキの新しい立ち枯れ木に多数の本種が集まったことが記録されている。本州、四国、九州、国外では朝鮮半島に分布。

参考文献

平田信夫(1990) 昭和20年代の島根県のカミキリムシ目録。すかしば, 34: 1-11。
日本鞘翅目学会編(1984)「日本産カミキリ大図鑑」565pp. 講談社。
氏原靖志(2024) 島根県内で2023年に確認した主なカミキリ。すかしば, 71: 1-14。

県内での生息地域・生息環境

県西部の山林でリュウブの花で採集された1例の後、記録がなかったが、近年、三瓶山麓においてクマノミズキに訪花していた個体の追加記録があった。

存続を脅かす原因

発生木を含む生息域の森林伐採。

(執筆: 福井 修二)

情報不足 (DD)

コウチュウ目カミキリムシ科

ニッポンモモトコバナカミキリ

Merionoeda (Ocytasia) formosana septentrionalis Tamu & Tsukamoto, 1952

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

撮影者 (提供者) : 氏原靖志

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

県内の数カ所で確認されているが少ない。南方系の種で本州では局所的な分布となっている。

概要

本種は国内に4亜種が生息し、県内ではその中の1亜種が確認されている。体長は10mm弱。後脚の腿節の一部が著しく太い。背面はオスがほぼ黒色、メスが前胸背板(首)と上翅付け根付近が黄褐色。触角長さは体長を越えない。本亜種は屋久島付近の島々から九州、四国、本州の中部以西にかけて分布する。先島諸島、沖縄、奄美大島には別の3亜

参考文献

藤田 宏・平山洋人・秋田勝己 (2023) 日本産カミキリムシ大図鑑(II), 407pp. むし社。
林 成多 (2010) 島根県産カミキリムシ類の文献記録. ホシザキグリーン財団研究報告, 13: 17-43.
氏原靖志 (2020) 島根県中部・東部カゴノキ生育地のカミキリ. すかしば, (67): 47-50.
氏原靖志 (2021) 島根県中部・東部カゴノキ生育地のカミキリ II. すかしば, (68): 35-39.
氏原靖志 (2024) 島根県内で2023年に確認した主なカミキリ. すかしば, (71): 1-14.

種が生息する。また、台湾に基亜種が生息する。幼虫はカゴノキなどのクスノキ類で育ち、成虫はリョウブなどの花に集まる。

県内での生息地域・生息環境

生息地は江津市、邑南町、川本町の各1カ所で、互いに比較的近い位置となる。すべてカゴノキ枯れ枝から羽脱したものが確認されている。カゴノキなどの混生する照葉樹の多い所で、適度に湿気が保たれている。

存続を脅かす原因

生息地及びその周辺の木々の伐採や乾燥化。

(執筆: 氏原 靖志)

情報不足 (DD)

コウチュウ目カミキリムシ科

トラフホソバナカミキリ

Thranus variegates Betes, 1873

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者 (提供者) : 白石泰志

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

本州以北での採集記録は少なく、島根県での分布は局地的。

概要

体長13—26mm。体は細長く、頭部と胸部は褐色。上翅は黄褐色と褐色の不規則な模様があるが、この模様は変異が多い。後翅は基部に近い位置から顕著に狭まるため、後翅が露出する。成虫は6~8月に暖・温帯林で見られ、広葉樹の倒木に集まる。幼虫はシイ類、アカメガシワ、ハルニシなどの広葉樹が食樹として知られる。北海道、本州、四国、九州に分布。

参考文献

門脇久志・淀江賢一郎 (1979) 鹿足郡津和野町地倉沼で得た昆虫類. すかしば, 12: 33-34.
日本鞘翅目学会編 (1984) 「日本産カミキリ大図鑑」565pp. 講談社。
山田 学 (1999) 匹見町の甲虫採集記録. すかしば, 47: 9-18.
淀江賢一郎 (1988) 島根県昆虫文献目録2. 島根県のカミキリムシに関する文献目録. すかしば, 30: 21-38.

県内での生息地域・生息環境

県西部で採集された記録のほか、他地域での記録はなかったが、近年、隠岐(島後)で生息が確認されている。

存続を脅かす原因

発生木を含む生息域の森林伐採。

(執筆: 福井 修二)

情報不足 (DD)

コウチュウ目カミキリムシ科

ルリボシカミキリ

Rosalia betesi Harold, 1877

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者 (提供者) : 福井修二

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

中国山地沿いと隠岐(島後)で採集されているが、記録数は少ない。

概要

体長16—30mm。全体が灰青色の鱗毛で覆われ、前胸背と上翅に黒色の斑紋がある美麗種である。斑紋に黒色の微毛があり、個体により斑紋の変化がある。触角は体長より長く、オスは第3~5節の先端に黒色の毛の束がある。温帯林上部に7~9月に出現して広葉樹の伐採木に集まり、これらに産卵する。国内での分布は北海道、本州、四国、九州、西日本での生息は少ないが、近年、関東地域では都市部近郊でも見られ

参考文献

門脇久志 (1977) 隠岐島の昆虫3. 隠岐島のカミキリムシ. すかしば, 7: 15-38.
加藤重和・椋木博昭 (2003) 安蔵寺山の甲虫. すかしば, 51: 1-8.
平田信夫 (1990) 昭和20年代の島根県のカミキリムシ目録. すかしば, 34: 1-11.
和泉浩行 (1985) 赤来町の鞘翅目(I)-中間報告. すかしば, 23: 11-16.
山本正志 (2006) 三瓶山山麓で採集したカミキリ2種. すかしば, 54: 54-55.

るようになったことが報告されている。海外では朝鮮半島、中国などにも分布。

県内での生息地域・生息環境

県東部から西部にかけての、中国山地およびその山麓域の森林で散発的な採集記録がある。また、隠岐島後では本土より標高の低い場所でも採集されている。

存続を脅かす原因

生息地域での大規模な森林伐採。

(執筆: 福井 修二)

情報不足 (DD)

コウチュウ目カミキリムシ科

オオアオカミキリ

Chloridolum (Chloridolum) thaliodes Bates, 1884

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者 (提供者) : 氏原靖志

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内では数カ所で確認されているが、少なく記録のほとんどが古い。

概要

体長は20—30mm程度。体色は青緑色で前胸背板(首)の青味が強い。触角が長く、オスで体長の2倍程度、メスでも体長を大きく越える。九州から北海道及び朝鮮半島、中国東北部に分布。幼虫はサワグルミ、オニグルミなどのクミミ類で育ち、成虫は盛夏から9月ごろ出現し、サワグルミ、オニグルミなどの倒木、衰弱木に集まる他、カラスザンショ、リュウブなどの花にも飛来する。

参考文献

藤田 宏・平山洋人・秋田勝己 (2023) 日本産カミキリムシ大図鑑(II), 407pp. むし社。
林 成多 (2010) 島根県産カミキリムシ類の文献記録. ホシザキグリーン財団研究報告, 13: 17-43.
平田信夫 (1990) 昭和20年代の島根県内のカミキリムシ目録. すかしば, (34): 1-11.
門脇久志 (1977) 隠岐島の昆虫3 隠岐島のカミキリムシ. すかしば, (7): 15-38.
島田 孝 (2004) 隠岐自然館甲虫標本目録. すかしば, (52): 33-40.

県内での生息地域・生息環境

隠岐や県西部の山地で確認されている。生息地では食樹のサワグルミが多い。ただ、生息地以外の場所でサワグルミがある程度生育しているも記録のない所が多い。

存続を脅かす原因

生息地及びその周辺におけるサワグルミなどの木々の伐採など人為的環境の改変。

(執筆者: 氏原 靖志)

情報不足 (DD)

コウチュウ目カミキリムシ科

チャイロチビヒラタカミキリ

Phymatodes (Phymatodellus) infasciatus infasciatus (Pic, 1935)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	情報不足 (DD)

撮影者 (提供者) : 氏原靖志

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内の記録は2020年の1件の記録のみ。県外でも比較的少ない種。

概要

県内には1亜種(基亜種)が確認されている。体長は大きいものでも5mm程度。上翅の基部の半分ほどが黄褐色で残りは黒褐色。触角長さは体長を越えない。和名のように平たい体形をしている。本亜種は九州から本州に分布する。北海道には別亜種が分布する。国外では千島列島、極東ロシア、中国東部、朝鮮半島に分布(亜種の区分不明)。成虫は食樹であるノブドウなどブドウ類の枯れ蔓に集まる。

参考文献

藤田 宏・平山洋人・秋田勝己 (2023) 日本産カミキリムシ大図鑑(II), 407pp. むし社。
林 成多 (2010) 島根県産カミキリムシ類の文献記録. ホシザキグリーン財団研究報告, 13: 17-43.
日本鞘翅目学会 編 (2001) 復刻版 日本産カミキリ大図鑑, 565pp. 講談社。
氏原靖志 (2021) チャイロチビヒラタカミキリの記録. すかしば, (68): 34.

県内での生息地域・生息環境

生息確認地は出雲市の島根半島部の1カ所でノブドウ枯れ蔓からの羽脱が確認されている。生息の確認された場所は照葉樹の多い所でノブドウが点在している。また、適度に湿気が保たれている。

存続を脅かす原因

生息確認地の植林地の拡大など自然環境の人為的な改変。

(執筆者: 氏原 靖志)

情報不足 (DD)

コウチュウ目カミキリムシ科

モンクロベニカミキリ

Purpuricenens lituratus Ganglbauer, 1886

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者 (提供者) : 山本浩也

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

里山の森林環境に局地的に分布する種で、島根県での記録も少ない。

概要

体長17—23mm。上翅は鮮紅色。前胸背に小黒紋、上翅中央部から後方に大きな黒色の紋がある。5月上旬から中旬、クヌギの伐採株から伸長した萌芽(ひこばえ)に集まり、葉や新梢を摂食することが知られているほか、訪花例も知られている。幼虫期の餌となる寄主植物はナラガシワ、クヌギ、コナラ、カシワが知られている。中国地方では岡山県での採集記録が多いが、全国的にも生息は局所的。

参考文献

福井修二 (2019) 島根県飯南町で採集されたモンクロベニカミキリ. すかしば, 66: 22.
日本鞘翅目学会編 (1984) 「日本産カミキリ大図鑑」565pp. 講談社。
曾田貞滋 (1977) 島根半島高尾山山塊及び松江平野のカミキリムシ. すかしば, 7: 1-13.

県内での生息地域・生息環境

島根県では1976年にモチノキ訪花記録以降、採集記録がなかったが、近年、県東部の山間部で追加記録があった。

存続を脅かす原因

里山部の開発による落葉広葉樹の消失や、里山山林の管理放棄による植生遷移による、本種が繁殖源とする樹木の消失。

(執筆者: 福井 修二)

情報不足 (DD)

コウチュウ目カミキリムシ科

ケナガカミキリ

Artimpaza setigera japonica (Pic, 1928)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 氏原靖志

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

-



選定理由

県内の1カ所で少数確認されている。南方系の種であり、本州では島根県以外に山口県、紀伊半島のみで確認数も少ない。

概要

台湾に基亜種が分布し、国内に生息するものは別の亜種になる。体長は大きいもので10mm程度。背面は黒色部が多く、前胸背板(首)は暗赤褐色。触角長さはオスで体長を少し超え、メスは越えない。西南諸島から本州の一部に分布。幼虫はカゴノキなどのクスノキ類で育ち、成虫はリョウブなどの花に集まる。

参考文献

藤田 宏・平山洋人・秋田勝己(2023) 日本産カミキリムシ大図鑑(II), 407pp. 株式会社 林 成多(2010) 島根県産カミキリムシ類の文献記録. ホシザキグリーン財団研究報告, 13:17-43. 氏原靖志(2020) 島根県中部・東部カゴノキ生育地のカミキリ. すかしば, (67):47-50. 氏原靖志(2024) 島根県内で2023年に確認した主なカミキリ. すかしば, (71):1-14.

県内での生息地域・生息環境

江津市の1カ所で確認された。カゴノキ枯れ枝から羽脱している。カゴノキなどが混生する照葉樹の多い所で、適度に湿気が保たれている。

存続を脅かす原因

生息地及びその周辺の木々の伐採や乾燥化。

(執筆: 氏原 靖志)

情報不足 (DD)

コウチュウ目カミキリムシ科

タキグチモモトホソカミキリ

Cleomenes takiguchii Ohbayashi, 1936

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 氏原靖志

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

県内では隠岐にわずかな記録があるのみ。

概要

体長は10mm前後。各脚の腿節の一部が太い。上翅は黒褐色の地に黄褐色の斑紋が4対ある。触角長さは体長を少し超える。九州から本州にかけて分布するが、主に西日本に分布する。東日本では太平洋側に局所的に分布し、岩手県が北限となっている。国外では朝鮮半島に分布。食樹はカゴノキなどのクスノキ科の木その他アカガシなどで腐朽が多少進んだ枯れ枝で羽脱が確認されている。成虫はリョウブやノリウツギの花などに集まる。

参考文献

藤田 宏・平山洋人・秋田勝己(2023) 日本産カミキリムシ大図鑑(II), 407pp. 株式会社 林 成多(2010) 島根県産カミキリムシ類の文献記録. ホシザキグリーン財団研究報告, 13:17-43. 門脇久志(1977) 隠岐島の昆虫3 隠岐島のカミキリムシ. すかしば, (7):15-38. 大林延夫・新里達也(2007) 日本産カミキリムシ. 818pp. 東海大学出版会.

県内での生息地域・生息環境

隠岐島後で確認されている。カゴノキなどの混生する照葉樹の多い山林で、適度に湿気が保たれている。

存続を脅かす原因

生息地及びその周辺の木々の伐採や乾燥化。

(執筆: 氏原 靖志)

情報不足 (DD)

コウチュウ目カミキリムシ科

クビアカモモトホソカミキリ

Kuraru rhopalophoroides rhopalophoroides Hayashi, 1951

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 八幡浩二

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

-



選定理由

隠岐(島後)で1998年に初めて採集された。本種の分布北限にあたるが、個体数は少なく生息状況も不明である。

概要

本亜種は国内に生息する亜種の1つで、単為生殖を行う。体長9-11mm。頭部の複眼より後方・前胸は朱色で小楯板周辺の上翅部も朱色を帯びる個体もある。他は黒色で、上翅の基部と側縁部を除く部分は灰白色の長毛が密生し灰色がかって見える。成虫は4~6月ごろに出現し、幼虫はソヨゴ、モチノキ、クロガネモチなどの枯れ枝を食す。本州(近畿以西と静岡)、四国、九州、屋久島、対馬などに分布するが産地は限られる(山口県・情報不足)。西表島には別亜種が生息する。

参考文献

氏原靖志(2020) 島根県中部・東部カゴノキ生育地のカミキリ. すかしば, 67:69-72. 氏原靖志(2021) 島根県中部・東部カゴノキ生育地のカミキリⅡ. すかしば, 68:35-39.

県内での生息地域・生息環境

隠岐(島後)ではコナラなど雑木のビーテングと林道脇の花のスイーピングで採集された2例、2個体のみで、個体数はきわめて少ないと推定される。島根県本土側では、2010年に江津市の千丈溪のスダジイの花で初めて採集され、2020年には千丈溪でモチノキの枯れ枝から羽脱したもの、邑南町井原でソヨゴの枯れ枝から羽脱したものがそれぞれ複数個体確認されている。

存続を脅かす原因

現時点では生息地や生息環境が明らかでなく不明。

(執筆: 八幡 浩二)

情報不足 (DD)

コウチュウ目カミキリムシ科

セダカコブヤハズカミキリ

Parechthistatus gibber gibber (Bates, 1873)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—
環境省カテゴリー
—



撮影者(提供者): 氏原靖志

選定理由

県内には4亜種(隠岐島後・島根半島亜種、隠岐島前亜種、中国地方中部亜種、中国地方西部亜種)が生息する。この内、隠岐島後・島根半島亜種は出雲北山で減少が大きい。隠岐島前亜種と中国地方西部亜種は生息確認範囲が狭い。中国地方中部亜種は県内の広い範囲に生息する。隠岐島後・島根半島亜種と隠岐島前亜種は県固有亜種。

概要

本種は飛ぶことが出来ないため移動が比較的狭い範囲に制限され、生息地によって体形や体色などに変化が生じやすい。国内では九州から関東西部に分布し、17亜種が確認されている。県内には4亜種が生息し、2亜種は県内のみが生息する。体長は10-20mm程度。中国地方西部亜種は若干大きい。体色は中国地方中部亜種が茶褐色、隠岐島後・島根半島亜種、隠岐島前亜種は前亜種よりやや黒味が強い茶褐色、中国地方西部亜種は赤みの弱い灰褐色。触角長さは中国地方西部亜種ではオスで体長の2.5倍前後、メスで体長の1.5倍弱。これ以外の3亜種ではオスで体長の2倍程度、メスで体長を少し超える。同種は上翅部が大きく盛り上がっている(瘤状隆起)ことで種名になっている。この瘤状突起は隠

参考文献

門脇久志 (1977) 隠岐島の昆虫3 隠岐島のカミキリムシ。すかしば,(7):15-38。
加藤重和・椋木博昭 (2003) 安蔵寺山の甲虫。すかしば,(51):1-8。
高桑正敏・中村博之・小林敏男 (2020) 日本のコブヤハズカミキリ 月刊むし・昆虫図説シリーズ 13,162pp.むし社。
氏原靖志 (2024) 島根県内で2023年に確認した主なカミキリ。すかしば,(71):1-14。
山田 学 (1999) 匹見町の甲虫採集記録。すかしば,(47):9-18。

岐島後・島根半島亜種、隠岐島前亜種では他の2亜種に比べ弱い。上翅先端の尖りは隠岐島前亜種では隠岐島後・島根半島亜種よりも鋭い。食樹はブナ、シデなどの倒木、落ち枝でヒラタケやカワラタケなどの菌が付いて適度に腐朽した状態ものに産卵される。成虫は初夏から秋に出現する。水気を残す広葉樹の枯葉や枯れ枝を食し、ブナやシデなどの倒木、落ち枝、立ち枯れにも集まる。また、落葉下などで越冬する。

県内での生息地域・生息環境

分布は隠岐島後・島根半島亜種が隠岐島後と島根半島、隠岐島前亜種が西ノ島、中国地方西部亜種が安蔵寺山付近、中国地方中部亜種が県西部の本州側の一部を除く山地となっている。広葉樹の多い自然度の高い所に多い。林床の乾燥化が進むと落ち枝等はあっても適度の水分が保たれず幼虫の生育は妨げられる。

存続を脅かす原因

生息地及びその周辺の木々の伐採、乾燥化。特に島根半島西部の山地ではニホンジカが増え生息地の林床の草、幼木が大きく減少し、林床の乾燥化が進んでいる。

(執筆: 氏原 靖志)

情報不足 (DD)

コウチュウ目カミキリムシ科

ヒメビロウドカミキリ

Acalolepta degener (Bates, 1873)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—
環境省カテゴリー
準絶滅危惧(NT)



撮影者(提供者): 松田隆嗣

選定理由

県内では十分な調査がされていないが、2010年以降に確認された生息地は1地点のみであり、生息地が限られ個体数も少ないと考えられる。また、草原や河川敷等の草地に生息し、このような環境は植生遷移や開発等の影響を受けやすい。

概要

体長10mm前後。上翅は白色毛と黄褐色毛が入り混じり不規則な模様がある。寄主植物としてオトコヨモギ(キク科)が知られており、日本国内では本州、四国、九州、対馬に分布する。

参考文献

藤村俊彦 (1966) 島根県のカミキリムシ。比和科学博物館研究報告, 9: 9-17。
松田隆嗣 (2013) 島根県におけるヒメビロウドカミキリの記録。ホシザキグリーン財団研究報告, 16:210。
大林延夫・佐藤正孝・小島圭三 編 (1992) 日本産カミキリムシ検索図説, 696pp. 東海大学出版会, 東京。

県内での生息地域・生息環境

県東部、県西部。県西部ではオトコヨモギが自生する河川敷の草地で確認されている。

存続を脅かす原因

植生遷移、開発等に伴う生息地の環境変化。

(執筆: 松田 隆嗣)

情報不足 (DD)

コウチュウ目カミキリムシ科

アサカミキリ

Thyestilla gebleri (Faldermann, 1835)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):中村芳樹

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類(VU)



選定理由

1950年前後には島根県では複数の採集記録があったが、近年の記録はない。

概要

体長10-15mm。黒色の背面中央部および両側に灰白色の縦縞を持つ。成虫は5-7月に出現し、アサ、アザミ類の葉や茎を摂食し、幼虫は茎に潜入して皮下を食べて育つ。後にその隙に食入し、根際で越冬して翌年羽脱する。全国的にアサ(大麻)の栽培が禁止された後に激減した。近年、他県では乾性草原に生育するアザミで発生が確認されている。幼

参考文献

平田信夫(1990)昭和20年代の島根県のカミキリムシ目録。すかしば, 34:1-11.
門脇久志(1977)隠岐島の昆虫3。隠岐島のカミキリムシ。すかしば, 7:15-38.
日本鞘翅目学会編(1984)「日本産カミキリ大図鑑」565pp. 講談社。
淀江賢一郎(1988)島根県昆虫文献目録2。島根県のカミキリムシに関する文献目録。すかしば, 30:21-38.

虫は本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、東シベリア、中国、モンゴルに分布。

県内での生息地域・生息環境

県東部地域の平野部と内陸部、隠岐(島後)で記録があったが、本県においても寄生植物のアサの栽培の禁止により生息環境が消失し、近年の記録はない。県内でもアザミ類を寄主に生息している可能性がある。

存続を脅かす原因

生息確認調査が必要。生息確認地での開発など環境変化や生息地の消失。

(執筆: 福井 修二)

情報不足 (DD)

コウチュウ目ゾウムシ科

バックinghamカギアシゾウムシ

Bagous buchinghami O'Brien et Morimoto, 1994

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

寄主植物が希少植物のガガブタに限定されている。

概要

体長3mm前後。体は細長く、背面は灰色で上翅の先端付近に白色斑紋がある。脛節の先端はかぎ針状。成虫はガガブタの浮葉上に生息し、浮葉の表面をかじり取るように食べる。幼虫は潜葉性。国内では本州、四国、九州、国外ではベトナムに分布する。

参考文献

林 成多(2011)島根県の水生甲虫。ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (1):1-117.
林 成多(2012)島根県松江市でバックinghamカギアシゾウムシを採集。ホシザキグリーン財団研究報告, (15):274.
林 成多(2020)改定 島根県の水生甲虫(1)。ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (25):1-84.
O'Brien, C. W. and K. Morimoto(1994) Systematics and evolution of weevils of the genus Bagous Germar (Coleoptera: Curculionidae)III. Taxonomic treatment of the species of Japan, Esakia, (34):1-74.

県内での生息地域・生息環境

県東部のガガブタが生える池で確認されている。

存続を脅かす原因

ガガブタ群落がある水域の減少。

(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

コウチュウ目ゾウムシ科

タカハシトゲゾウムシ

Dinorhopala takashii (Kano, 1930)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):今田舜介

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での分布は局所的で個体数も少ない。

概要

体長4mm内外。体全体はほぼ黒色で、前胸、上翅基部に赤褐色部がある。また、上翅には大小の円錐形突起を持つ。黒色の後脚腿節部は三角突起状に肥大する。成虫は5-7月に出現しサクラ類の幼木の葉裏に見られる。葉を後食したときの食痕は小さな円形。幼虫はサクラ、スモモの葉に潜り内部を摂食することが知られている。本州、四国、九州に分布。

参考文献

福井修二(1994)瑞穂町の甲虫類。「島根県瑞穂町の昆虫類」:27-37。島根県昆虫研究会。
福井修二・鬼頭 剛・鈴木謙治・山崎克友(1989)匹見産昆虫目録4。匹見町の鞘翅目(2)。すかしば, 31:13-18.

県内での生息地域・生息環境

本種の寄主であるサクラ類は、低地から高地にかけて広域に多数生育する樹木であるにも関わらず、採集例は少ない。県西部、中部の山間部の落葉広葉樹林での記録がある。

存続を脅かす原因

本種が確認された生育地域の森林の大規模伐採。

(執筆: 福井 修二)

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

情報不足 (DD)

コウチュウ目ゾウムシ科

ババスゲヒメゾウムシ

Limnobaris babai Chujo et Morimoto 1959

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

生息可能な湿地が県内には非常に限られている。

概要

体長3.5-4.4mm。黒色小型のゾウムシである。成虫は春から初夏に出現し、大型のスゲ属の葉を食べる。日本固有種で本州と九州に分布する。

参考文献

林 成多 (2006) 飯南町赤名のツヤネクイハムシとババスゲヒメゾウムシ。すかしば, (54) : 65.

県内での生息地域・生息環境

県中部の湿地で確認されている。これまでのところ1カ所のみで確認されているが、中国山地の小規模な湿地を調査すれば生息を確認できる可能性がある。

存続を脅かす原因

湿地の開発、自然遷移。

(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

コウチュウ目ゾウムシ科

モジャモジャツチイロゾウムシ

Pseudohylobius setosus Morimoto, 1962

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):大生唯統

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

全国的にもまれな種であり、県内の記録も限定される。

概要

体長6mm前後。体色は全体が茶褐色で、体の上面は疎生する「もじゃもじゃ」の毛(起毛した鱗片)に覆われるほか、太い口吻を持つのが特徴。生態については良くわかっていない。島根、鳥取での採集例は秋季に立木の根元の落ち葉からの採集例であり、成虫越冬すると推察される。九州では山地の枯れたフジの幹に複数個体が集まっていたという記録がある。

参考文献

三宅 登・福井修二・金子信博・片桐成夫 (1990) 島根大学農学部付属三瓶演習林の鞘翅目。山陰地域研究(森林資源), 6: 175-188.
大生唯統 (2021) 鳥取県におけるモジャモジャツチイロゾウムシの初記録。すかしば, 68: 84.
城戸克弥 (2025) 福岡県のゾウムシ KORASANA, 105: 112.

県内での生息地域・生息環境

三瓶山山麓の広葉樹林において、秋期に立ち木の地際に堆積した落葉層から複数の個体が採集されている。

存続を脅かす原因

本種を確認した生育地域の森林の大規模伐採。

(執筆: 福井 修二)

情報不足 (DD)

ハエ目クサアブ科

ネグロクサアブ

Coenomyia basalis Matsumura, 1915

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):門脇久志

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

情報不足(DD)



選定理由

局地的に生息する大型のクサアブ。近年の確認例は少なく、生活史も不明である。

概要

体長14-22mm。雄は黒色、雌は赤褐色で、それぞれ腹部に白色斑紋がある。成虫は春から初夏に出現することが知られているが、生態には不明な点が多い。国内では北海道、本州、四国、九州、伊豆諸島、国外ではサハリン、千島に分布する。

参考文献

藤原淳一 (2008) 松江市島根町でネグロクサアブを採集。すかしば, (56) : 26.
林 成多・門脇久志・松田隆嗣・深谷 治・近見芳恵 (2013) 隠岐諸島における昆虫類分布調査(2009-2012年調査のまとめ)。ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (8): 1-73.
奥島雄一・植松 蒼 (2016) ネグロクサアブの記録。しぜんくらしき, (99): 9-10.

県内での生息地域・生息環境

県東部および隠岐諸島で確認されている。

存続を脅かす原因

不明。

(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

ハエ目ハナアブ科

ケンランアリノスアブ

Microdon katsurai Maruyama et Hironaga, 2004

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類(VU)



選定理由

トゲアリを寄主とする特異な生活史を持つハナアブで、トゲアリが営巣する洞のある樹木が点在するような雑木林が減少している。

概要

体長12-15mm前後。アリノスアブ類としても大型で、体が金緑色を帯び、他種との識別は容易である。成虫は6月から7月に出現し、トゲアリのコロニーに飛来する。幼虫はトゲアリの巢内で成育する。日本固有種で本州に分布する。

参考文献

福井修二 (2012) ケンランアリノスアブの採集記録。すかしば, (59) : 39-40.

林 成多・片岡大輔 (2013) 島根県雲南市木次町ふるさと尺の内公園で採集された双翅目 (2012年)。ホシザキグリーン財団研究報告, (16) : 318-326.

Maruyama, M. and T. Hironaga (2004) *Microdon katsurai*, a new species of myrmecophilous hoverfly (Diptera, Syrphidae) from Japan, associated with *Polyrhachis lamellidens* (Hymenoptera, Formicidae). Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. A, 30(4): 173-179.

県内での生息地域・生息環境

県東部および中部の2カ所で確認されている。

存続を脅かす原因

トゲアリが営巣可能な雑木林の減少。トゲアリが生息するだけでは本種の生息条件とはならない。

(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

ハエ目ニクバエ科

ゴヘイニクバエ

Sarcophila japonica (Rohdendorf, 1962)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅰ類(VU)



選定理由

海浜植生を伴った砂丘や砂浜に生息する種であり、その生息地が減少している。

概要

体長5-6mm前後。ニクバエ科としては小型である。成虫は魚の死体などに飛来する。国内では本州、国外では沿海州、朝鮮半島に分布する。

参考文献

古田 治 (2005) 鳥取砂丘採集記 (ゴヘイニクバエを求めて)。はなあぶ, (19) : 43-46.

柿沼 進 (2009) 島根県浜田市でゴヘイニクバエを採集。はなあぶ, (27) : 56.

県内での生息地域・生息環境

県西部の砂浜で確認されている。県東部の外圍海岸も本種の生息する可能性が高いため、重点的に調査をしたが、確認できなかった。

存続を脅かす原因

海浜の開発、特に海浜植生の破壊。海岸浸食。

(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

トビケラ目シマトビケラ科

アイヤマシマトビケラ (アイシマトビケラ)

Diplectrone aiensis Kobayashi, 1987

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団

島根県固有評価

基準標本産地

環境省カテゴリー

—

No Image

選定理由

県内の生息地は局地的で、全国的にも希少な種である。

概要

体長6.5mm、前翅長8.0mm。奥出雲町(旧仁多町)阿井産の標本を基準標本産地として記載された小型のトビケラである。日本固有種で、本州に分布する。全国的に生息地は限られている。

参考文献

河瀬直幹・林 成多 (2011) 島根県出雲市で採集されたトビケラ成虫の記録。ホシザキグリーン財団研究報告, (14) : 189-193.

Kobayashi, M. (1987) Caddisflies or Trichoptera from Shimane Prefecture in Japan (Insecta). Bull. Kanagawa Pref. Mus., (17) : 13-35.

県内での生息地域・生息環境

県東部の斐伊川水系および神戸川水系に生息している。中流域および上流域で記録があり、幼虫の生息場所は不明であるが、成虫の生息地周辺の河川に生息していると考えられる。

存続を脅かす原因

生息地の水質汚濁、河川の開発改修、大規模な水害や極端な渇水。

(執筆: 林 成多)

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

情報不足 (DD)

トビケラ目ヒゲナガトビケラ科

ビワアシエダトビケラ

Georgium japonicum (Ulmer, 1905)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧(NT)

No Image

選定理由

県内の生息地は局地的で、近年の記録は少ない。

概要

体長8mm前後。幼虫はヨシの生える池沼や河川に生息する。日本固有種で本州に分布する。全国的に減少した種として知られている。

参考文献

野崎隆夫・中村慎吾 (2005) 島根県で採集されたトビケラ成虫の記録。比和科学博物館研究報告, 45: 217-229.
津田松苗 (1954) 三瓶山浮布池のトビケラ。新昆虫, 7(12): 26-27.

県内での生息地域・生息環境

三瓶山浮布池で1953年8月に幼虫の記録があるが、現在は水質が悪化し、絶滅したとみられる。県中部の江の川水系では1999年の記録がある。近年では神戸川下流で確認されている。

存続を脅かす原因

生息地の水質汚濁、池沼や河川におけるヨシ群落の消失。

(執筆者: 林 成多)

情報不足 (DD)

トビケラ目ヒゲナガトビケラ科

モリクサツミトビケラ

Oecetis morii Tsuda, 1942

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

No Image

選定理由

平地の止水に生息するトビケラで、生息地はきわめて限られている。

概要

体長8mm前後。平地性の種とされ、全国的に少ない種として知られている。日本固有種で本州に分布する。

参考文献

河瀬直幹・林 成多 (2011) 島根県出雲市で採集されたトビケラ成虫の記録。ホシザキグリーン財団研究報告, (14): 189-193.

県内での生息地域・生息環境

県東部のため池1カ所で記録がある。生息地の池は、その後、ヌートリアやアメリカザリガニが増加し、水草の消失や水質の悪化が認められ、生息していない可能性が高い。

存続を脅かす原因

生息地の水質汚濁、圃場整備、外来種の進入。

(執筆者: 林 成多)

情報不足 (DD)

トビケラ目ヒゲナガトビケラ科

ギンボシツツトビケラ

Setodes turbatus (Navas, 1933)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧(NT)

No Image

選定理由

希少種とされるが、県内の生息地は局地的で、情報収集が必要。

概要

体長4-6mm前後。成虫は前翅が褐色で銀色の細長い筋状の斑紋がある。この模様はヒメセトトビケラのものに似ている。幼虫は、水田の水路のような流れの緩い場所に生息する。全国的な希少種とされてきたが、地域によっては多い場所もあることが報告されている。

参考文献

河瀬直幹・林 成多 (2009) 島根県安来市で採集されたギンボシツツトビケラ *Setodes argentatus* の記録 (毛翅目ヒゲナガトビケラ科)。ホシザキグリーン財団研究報告, (12): 323-324.
林 成多・相馬理央・吉成 暁・鳥居高明 (2024) 島根県産水生昆虫類 (トビケラ目) のDNAバーコード。ホシザキグリーン財団研究報告, (27): 91-109.

県内での生息地域・生息環境

安来市や出雲市で灯火に飛来した記録がある。近年は出雲市内の丘陵地において確認されているが、幼虫の生息場所は確認されていない。

存続を脅かす原因

生息地の水質汚濁、圃場整備。

(執筆者: 林 成多)

情報不足 (DD)

トビケラ目ヒゲナガトビケラ科

ウジセトトビケラ (ウジヒメセトトビケラ)

Setodes ujiensis (Akagi, 1960)

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

準絶滅危惧 (NT)

No Image

選定理由

県内の生息地は局地的で、京都府や長野県、島根県で記録された全国的にも希少な種である。

概要

前翅長6-7mm前後の小型のトビケラ。同定には雄の生殖器の形状を詳しく観察する必要がある。日本固有種で、本州西部に分布する。全国的に生息地は限られている。基準標本産地は京都府である。

参考文献

野崎隆夫・中村慎吾 (2005) 島根県で採集されたトビケラ成虫の記録。比和科学博物館研究報告, (45) : 217-229.
谷田一三 (2015) ウジセトトビケラ。京都府レッドデータブック2015。https://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/bio/db/ins0024.html

県内での生息地域・生息環境

県中部の江の川水系に生息している。

存続を脅かす原因

生息地の水質汚濁、河川の開発改修、大規模な水害や極端な渇水。
(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

トビケラ目トビケラ科

カラフトゴマフトビケラ

Semblis phalaenoides (Linnaeus, 1758)

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

—



撮影者 (提供者): 近木英哉

選定理由

国内で特異な分布を示すトビケラで、赤名湿原での記録は注目されるが、それ以後の記録はなく、分布・生息環境などは不明である。

概要

体長21-25mm、翅開張52-65mm。前翅の地色は乳白色で黒褐色の斑紋を点布する。後翅は乳白色で黒色の縁どりがある。ゴマフトビケラによく似ているが、より大型で斑紋が鮮明である。北海道と本州 (広島県・島根県) に分布し、6-8月に出現する。国外ではサハリン、シベリアなどに分布する。

参考文献

野崎隆夫 (2000) 広島県産カラフトゴマフトビケラの確認。比和科学博物館研究報告, (39) : 1-4.

県内での生息地域・生息環境

赤名湿原で採集され、同種と同定されたのが唯一の記録で、その後記録がなく詳細は不明である。広島県三段峡でも採集されている。

存続を脅かす原因

湿原の遷移、開発。
(執筆: 林 成多)

情報不足 (DD)

チョウ目マダラガ科

オオヤマスカシクロバ

Helina nigra (Leech, [1889])

カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
—	—	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリ

—



撮影者 (提供者): 石田弓子

選定理由

全国および県内での生息地がきわめて限定される。

概要

開張22-25mmほどで、少し蜂に似た蛾。オスの触角は両櫛歯状、メスは鋸歯状。触角、頭、脚、腹は黒色で、濃紺ないし緑色の金属光沢がある。口吻はオレンジ色。翅は墨色だが、オスの後翅は半透明である。成虫は年一回、4-5月ごろに出現する。河川敷などの明るい草原を好み、日中に飛び回る。幼虫の寄主植物はノブドウ。本州に分布するが、きわめて局地的である。国外では、中国東部に分布する。

参考文献

広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝 (編) (2013) 日本産蛾類標準図鑑3. 学研教育出版, 東京.
三島秀夫 (2019) 島根県で採集されたガ数種について。島根県立三瓶自然館研究報告, (17): 45-49.

県内での生息地域・生息環境

県中部、三瓶山の草原での記録があるのみ。県内の河川敷などにも生息している可能性はあるかもしれない。

存続を脅かす原因

草原、草むら環境の減少、消滅。
(執筆: 三島 秀夫)

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

情報不足 (DD)

チョウ目マダラガ科

ルリハダホソクロバ

Rhagades pruni (Denis & Schiffermuller, 1775)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):三島秀夫

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

準絶滅危惧(NT)



選定理由

生息地が限定され、個体数も少ない。

概要

開張17-22mm。オオヤマスカシクロバと同様に少し蜂に似た蛾である。オスの触角は櫛歯状、メスはほぼ糸状。頭部、胸部は強い緑の光沢がある。前翅は墨色で半透明、金、緑、紺の光沢を持つ。後翅は墨色で中央が半透明。成虫は年に一度、6~8月にかけて現れる。日中に活動する蛾で、火山性草原、河川敷など明るい草を好むという。幼虫の寄主植物はズミ。国内では本州、九州、対馬、五島列島に、国外では朝鮮半島からヨーロッパまで、ユーラシア大陸に広く分布する。

参考文献

林 成多・門脇久志・松田隆嗣・深谷 治・近見芳恵(2013) 隠岐諸島における昆虫類分布調査(2009-2012年調査のまとめ)。ホシザキグリーン財団研究報告特別号第8号:1-73。

広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝(編)(2013) 日本産蛾類標準図鑑3.学研教育出版.東京。

三島秀夫(2017) 島根県で採集されたガ数種について。島根県立三瓶自然館研究報告,(15):77-81。

三島秀夫・門脇久志・大浜祥治(2019) 隠岐諸島の蛾類(II)。すかしば,(66):49-100。

県内での生息地域・生息環境

県中部、三瓶山の草原と隠岐諸島に記録がある。火山性草原を好むというのは、三瓶山が確かに当てはまる。

存続を脅かす原因

明るい草原、河川敷などの減少、消滅。

(執筆:三島 秀夫)

情報不足 (DD)

チョウ目ツトガ科

ハマゴウノメイガ

Aglaois albipennis (Inoue, 2000)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):小山凜音

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

典型的な海浜性種であり、開発や海浜浸食による海浜環境の悪化が進行し続けた場合、生息密度の維持が危惧される。

概要

前翅長約9mm。翅表面は大部分が乳白色で、前翅の前縁に褐色の帯状紋、前後翅に黒褐色の内横線と外横線をもつ。山陰地方では、成虫は6月下旬-8月中旬、幼虫は7月上旬-9月上旬に出現する。海浜植物の1種であるハマゴウを寄主とし、幼虫は主に蕾を食べて育つ。国内では、本州、四国、九州、三宅島の沿岸部に分布する。現在のところ国外からは未知。

参考文献

林 成多・松田隆嗣・門脇久志・深谷 治・近見芳恵(2012) 隠岐諸島における昆虫分布調査II。ホシザキグリーン財団研究報告,15:287-297。

松田隆嗣(2012) ハマゴウノメイガを島根県で採集。ホシザキグリーン財団研究報告,15:298。

松田隆嗣・大野桂一・新部一太郎(2018) 山陰地方におけるハマゴウノメイガの分布と生息の状況。すかしば,65:1-4。

三島秀夫(2020) 島根県で採集されたガ数種について。島根県立三瓶自然館研究報告,18:83-87。

那須義次・広渡俊哉・岸田泰則(編)(2013) 日本産蛾類標準図鑑4.学研教育出版.東京。

県内での生息地域・生息環境

東部、中部、西部および隠岐諸島西ノ島で生息が確認されている。県内の生息地のほとんどは砂浜海岸で、ハマゴウの生育が良好な場所では個体数が多い。

存続を脅かす原因

開発や海岸浸食による植生の破壊や環境の変化。

(執筆:小山 凜音)

情報不足 (DD)

チョウ目ジャクガ科

トギレフユエダジャク

Protalcis concinnata (Wileman, 1911)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):三島秀夫

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

県内での生息地が限定される。

概要

開張オス22-30mm、メス11-18mm。オスは薄い茶色の地に茶色のスジがいくつか入った翅を持っているが、メスは翅が退化しており、オスの翅をそのまま縮めたようなごく小さい翅しか持っていない。おそらく飛べないと思われる。早春の蛾で、成虫は年に一回、3~4月ごろに出現する。幼虫の寄主植物はカシワ、アブラチャン、リンゴ、アワビキなどで、広食性だとされる。国内では北海道、本州、四国、九州に、国外では朝鮮半島、ロシア南東部に分布する。

参考文献

岸田泰則(編)(2011) 日本産蛾類標準図鑑1.学研教育出版.東京。

三島秀夫(2016) 島根県で採集されたガ数種について。島根県立三瓶自然館研究報告,(14):63-69。

中島秀雄・小林秀紀(2017) 日本の冬尺蛾。むし社.東京。

県内での生息地域・生息環境

現在までのところ県中部、三瓶山の記録があるのみ。

存続を脅かす原因

調査が必要だが、良好な森林環境の減少が考えられる。

(執筆:三島 秀夫)

情報不足 (DD)

チョウ目シャクガ科

クロモンチビヒメシャク

Idaea crassipuncta (Inoue, 1971)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 松田隆嗣

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

日本国内からの記録が極めて少なく、分布が限られるため。

概要

開張10mm前後。日本産*Idaea*属のなかで最も小型の種である。翅の色は全体的に白色で、前翅と後翅の中央に黒点がある。生態についての知見は乏しく、寄主植物は不明である。本種が属するヒメシャクガ亜科は外見が近似した種が多いため同定が難しく、分布や生態の情報が乏しい分類群の一つである。日本固有種であり、本州(神奈川県、岐阜県、兵庫県、島根県)、南西諸島から少数の記録がある。

参考文献

金子岳夫(2012)クロモンチビヒメシャクの島根県からの記録。誘蛾燈(210):142。
岸田泰則(編)(2011)日本産蛾類標準図鑑1。352pp。学研教育出版。東京。

県内での生息地域・生息環境

雲南市、出雲市。島根県では砂浜海岸および里山環境で確認されている。

存続を脅かす原因

生息状況の調査が必要であるが、多様な環境を含む里山環境および海浜環境の消失。

(執筆者: 松田 隆嗣)

情報不足 (DD)

チョウ目シャクガ科

ムネシロテンカバナミシャク

Eupithecia maenamiella Inoue, 1980

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

基準標本産地

環境省カテゴリー

—

No Image

選定理由

国内の分布は局地的で著しく少ない。島根県出雲市(旧平田町)が基準標本産地となっているが、県内では原記載以降に記録がなく生息状況が不明である。

概要

開張15—20mm。翅の色は全体的に淡褐色、前翅の先はとがる。後胸背には白紋を有する。本種が属するカバナミシャク属の蛾は国内から約70種が知られているが、外見が似た種が多いため同定が難しい。本種は日本固有種であり、北海道、青森県、秋田県、岩手県、愛知県、三重県、島根県に分布する。

参考文献

Inoue, H. (1980) Revision of the genus *Eupithecia* of Japan, Part 2 (Lepidoptera: Geometridae). Bulletin of the Faculty of Domestic Sciences, Otsuma Women's University, 16, 153-213.
岸田泰則(編)(2011)日本産蛾類標準図鑑1。352pp。学研教育出版。東京。

県内での生息地域・生息環境

出雲市(旧平田町)が唯一の生息確認地。

存続を脅かす原因

本種の生息状況の調査が必要であるが、古木の残る寺社林に依存している可能性もあるとされるため、寺社林を含む。

(執筆者: 松田 隆嗣)

情報不足 (DD)

チョウ目カレハガ科

ワタナベカレハ

Gastropacha clathrata Bryk, 1949

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 松田隆嗣

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

生息地がきわめて限定される。

概要

開張48—72mm内外。オスよりメスが大きい。ホシカレハ*Gastropacha populifolia* (Esper, 1783)とよく似ているが、翅の色が赤褐色であること、前後翅の外縁屈曲がよわいことなどで区別される。国内では、北海道、本州、四国、九州、屋久島、国外では、朝鮮半島、ロシア南道部に分布する。産地は局地的で少ない種。特にメスはまれだという。幼虫の寄主植物などは未知。

参考文献

星川和夫(1994)瑞穂町の蛾類群集。島根県特定地域野生生物緊急調査報告。瑞穂町の昆虫類:58-71。
岸田泰則(編)(2011)日本産蛾類標準図鑑1。学研教育出版。東京。
松田隆嗣(2017)松江市におけるワタナベカレハの記録。すかしば。(64):48。

県内での生息地域・生息環境

現在までのところ、県東部で1例、県中部から中国山地に続く地域で1例、記録があるに過ぎない。

存続を脅かす原因

生息に関する調査が必要である。

(執筆者: 三島 秀夫)

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

情報不足 (DD)

チョウ目カイコガ科

スカシサン

Prismosticta hyalinata Butler, 1885

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):大江基博

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生息地が限定される。

概要

開張27—28mm内外。触角はオス、メスともに櫛歯状。翅の色はメスが明るい茶色で、オスはこげ茶色が主体となる。前翅の翅頂近くには半透明の紋がある。成虫は7~8月に出現、幼虫の寄主植物は、ハノキ科のサワフタギ、タンナサワフタギである。国内では本州(関東地方以西)、四国、九州に分布する。国外については不詳。今のところ日本固有種。全国的にあまり多くない蛾で、特にメスは少ないとされる。県内ではオス、メスともに採集されている。

参考文献

岸田泰則(編)(2011)日本産蛾類標準図鑑1.学研教育出版.東京.
三島秀夫(2015)島根県で採集されたガ数種について.島根県立三瓶自然館研究報告.(13):61-64.

県内での生息地域・生息環境

県中部、三瓶山でのみ生息が確認されている。確認地はシデ主体の落葉樹林地帯。

存続を脅かす原因

良好な落葉樹林地帯の減少や消滅。

(執筆:三島 秀夫)

情報不足 (DD)

チョウ目ヤマムコガ科

オナガミズアオ

Actias gnoma gnoma (Butler, 1877)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):小山凜斉

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧(NT)



選定理由

全国的に減少が危惧されている。また、県内の生息状況について十分な知見が得られていない。

概要

前翅張50mm前後。翅表面は翡翠色を帯びた白色で、各翅に1個の小さな眼状紋がある。また、前翅および胸部の前縁には赤紫色の筋が、後翅には長い尾状突起がある。温暖な地域では年2化性で、成虫は5月から8月に出現する。寄主植物はハノキ、ヤシヤブシなどのハノキ属。国内では、北海道、本州、四国、九州、伊豆諸島に、国外では朝鮮半島、中国、ロシア南東部に分布する。

参考文献

岸田泰則(編)(2011)日本産蛾類標準図鑑1.学研教育出版.東京.
小山凜斉(2022)改訂しほねレッドデータブック掲載種の採集記録.すかしば.69:24-25.
松田隆嗣・野口祐美子(2013)松江市でオナガミズアオを採集.すかしば.60:17-18.
三島秀夫・米浦道子(2010)島根県大田市久手町の蛾類.島根県立三瓶自然館研究報告.(8):25-32.

県内での生息地域・生息環境

東部および中部の、主に低標高地で発見されている。県内の古い採集記録は、同属のオオミズアオと混同されていた可能性があるため、標本の再検討が必要である。松江市ではオオバヤシヤブシから幼虫が発見されている。

存続を脅かす原因

寄主植物であるハノキ属を含む林の減少や消失。

(執筆:小山 凜斉)

情報不足 (DD)

チョウ目スズメガ科

ギンボシスズメ

Parum colligata (Walker, 1856)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):三島秀夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内では1990年代以降の記録がなく、生息状況が不明である。

概要

開張70—90mm。雌雄ともに前翅中室に銀白紋があり、日本産のスズメガ科に近似した種がないため他種との区別は容易である。幼虫の寄主植物としてクワ科のカジノキ、コウゾが知られている。日本国内では北海道、本州、四国、九州、対馬、南西諸島に分布する。

参考文献

門脇久志・淀江賢一郎・大島 弘(1992)島根県で採集された蛾類目録.すかしば.(37/38):1-44.
岸田泰則(編)(2011)日本産蛾類標準図鑑1.352pp.学研教育出版.東京.

県内での生息地域・生息環境

県東部、県西部。山間地で確認されている。

存続を脅かす原因

原因は不明である。寄主植物は現在でも県内各地で見られることから、寄主植物の減少が原因とは考えにくく、今後の調査が必要である。

(執筆:松田 隆嗣)

情報不足 (DD)

チョウ目シャチホコガ科

エゾクシヒゲシャチホコ

Ptilophora jezoensis (Matsumura, 1920)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):三島秀夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での分布が局地的である。

概要

開張30—36mm内外。晩秋から初冬にかけて出現するシャチホコ。体は長い毛に覆われているが、翅は鱗粉が少なく、薄く透きとおっている。また、直線状の白い外横線が特徴的である。成虫は10~11月にかけて現れるが、成虫で越冬はせず、卵で越冬し、翌春に孵化する。幼虫の寄主植物はカエデ類。国内では北海道、本州、四国、九州に、国外では朝鮮半島、ロシア南東部に分布する。

●参考文献

門脇久志・淀江賢一郎・大島 弘 (1992) 島根県で採集された蛾類目録。すかしば, (37/38):1-44.
岸田泰則 (編) (2011) 日本産蛾類標準図鑑2. 学研教育出版. 東京.
能美 豪 (2016) 大万木山の蛾。すかしば, (63):7-9.

県内での生息地域・生息環境

生息地は県中部の三瓶山、大万木山、西中国山地の一部。山間部に限られる。

存続を脅かす原因

雑木林を含む森林環境の減少と消滅。

(執筆者:三島 秀夫)

情報不足 (DD)

チョウ目ドクガ科

ウスジロドクガ

Calliteara virginea (Oberthur, 1879)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):三島秀夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧(NT)



選定理由

全国的に減少が危惧され、個体数も少ない。県内では分布が限られ、近年の記録が無い。

概要

開張はオスで45mm程度、メスで64mm程度。翅は白色で、前翅に2本の黒線が入る。草原性のドクガ類とされ、寄主植物としマメ科ハギ属が知られている。日本国内では本州、四国、九州に分布する。

●参考文献

門脇久志・淀江賢一郎・大島 弘 (1992) 島根県で採集された蛾類目録。すかしば (37/38):1-44.
岸田泰則 (編) (2011) 日本産蛾類標準図鑑2. 416pp. 学研教育出版. 東京.

県内での生息地域・生息環境

大田市。草原やその周辺を生息地としていと考えられる。

存続を脅かす原因

草原環境の悪化。

(執筆者:松田 隆嗣)

情報不足 (DD)

チョウ目ドクガ科

トラサンドクガ

Kidokuga torasan (Holland, 1889)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):三島秀夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧(NT)



選定理由

全国的に減少が危惧され、県内での生息地も限られている。

概要

開張21—25mm。翅は全体が橙黄色。オスの方が色が濃い。オスは前翅の中に斑紋があり、後翅が黒色になる個体もある。メスの前翅は無紋。成虫は5月と7~8月に出現する。草原性のドクガで、成虫は日中に活動するが、夜間、灯火に飛来することもある。幼虫の寄主植物は定かではないが、クヌギで飼育されているという。本州、四国、九州、対馬に分布。ただ、局地的に産する。

●参考文献

門脇久志・淀江賢一郎・大島 弘 (1992) 島根県で採集された蛾類目録。すかしば, (37/38):1-44.
岸田泰則 (編) (2011) 日本産蛾類標準図鑑2. 学研教育出版. 東京.
三島秀夫 (2014) 島根県で採集されたガ数種について。島根県立三瓶自然館研究報告, (12): 19-22.
三島秀夫 (2021) 大田市の蛾類。島根県立三瓶自然館研究報告, (19):79-122

県内での生息地域・生息環境

県中部三瓶山の草原で確認されているのみ。

存続を脅かす原因

生息地である草原環境の悪化。

(執筆者:三島 秀夫)

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

情報不足 (DD)

チョウ目ヒトリガ科

シロホンバ

Eliema degenerella, (Walker, 1863)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

準絶滅危惧(NT)

No Image

選定理由

全国的に減少しているとされ、県内では十分な調査がされていないが、分布が限られ個体数も多くない。

概要

開張22mm程度。翅は白色で無紋。日本産のコケガ亜科では本種に類似した種がないため同定は容易である。幼虫は地衣類を摂食することが知られている。日本国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。

参考文献

門脇久志・岸田泰則 (1977) 隠岐島の蛾 (I)。蛾類通信,(90): 489-496.
岸田泰則 (編) (2011) 日本産蛾類標準図鑑2. 416pp. 学研教育出版. 東京.
淀江賢一郎・星川和夫・門脇久志・尾原和夫・三島秀夫, 松江市門木池とその周辺の昆虫類, ホシザキグリーン財団研究報告 (4): 161-192.

県内での生息地域・生息環境

県東部と隠岐諸島 (島後)。県東部では主に平地や丘陵地の草地や湿地周辺で確認されている。

存続を脅かす原因

調査が必要であるが、開発等に伴う生息地の消失、乾燥化。
(執筆: 松田 隆嗣)

情報不足 (DD)

チョウ目コブガ科

ミカボコブガ

Meganola mikabo (Inoue, 1970)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

準絶滅危惧(NT)



撮影者 (提供者): 三島秀夫

選定理由

全国的に減少傾向にあり、県内でも生息地が限られる。

概要

開張19-27mm。オスの触角は櫛歯状。前翅は灰白色の地に、黒褐色の斑紋や条線がまじりあって、特異な模様を形作っている。後翅は薄い茶色で無紋。成虫は8月ごろに出現する。幼虫の寄主植物はカシワ。国内では北海道、本州、九州に分布するが、局地的で、数も多くない。国外では、朝鮮半島、ロシア南東部に分布。

参考文献

門脇久志・淀江賢一郎・大島 弘 (1992) 島根県で採集された蛾類目録, すかしば, (37/38):1-44.
岸田泰則 (編) (2011) 日本産蛾類標準図鑑2. 学研教育出版. 東京.
三島秀夫 (2021) 大田市の蛾類, 島根県立三瓶自然館研究報告,(19):79-122
三島秀夫 (2024) 島根県で採集された蛾種について2023, 島根県立三瓶自然館研究報告,(22):65-67.

県内での生息地域・生息環境

県中部の三瓶山で記録されているのみ。

存続を脅かす原因

調査が必要だが、カシワを含む雑木林、森林などの減少、消滅が考えられる。
(執筆: 三島 秀夫)

情報不足 (DD)

チョウ目ヤガ科

キシタアツバ

Hypena claripennis (Butler, 1878)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

準絶滅危惧(NT)



撮影者 (提供者): 三島秀夫

選定理由

全国的に減少が懸念され、県内でも同じ状況が考えられる。

概要

30mm内外。前翅の基部から中央付近の横線までは、黄褐色、その外側は紫がかった灰色である。後翅はほぼ全部黄色。成虫は4~9月に出現、日中でも、草むらなどから飛び出すことがある。幼虫の寄主植物は、イラクサ科のヤブマオ。国内では本州、四国、九州、対馬に、国外では、朝鮮半島、中国に分布する。

参考文献

門脇久志・淀江賢一郎・大島 弘 (1992) 島根県で採集された蛾類目録, すかしば, (37/38):1-44.
岸田泰則 (編) (2011) 日本産蛾類標準図鑑2. 学研教育出版. 東京.
松田隆嗣 (2013) 松江市街地で採集された蛾類の記録, すかしば, (60):1-16.
三島秀夫 (2020) 大田市の蛾類, 島根県立三瓶自然館研究報告,(18):89-118.
三島秀夫・門脇久志・大浜祥治 (2019) 隠岐諸島の蛾類 (II), すかしば,(66):49-100.

県内での生息地域・生息環境

県東部から西部にかけて、いくつかの記録がある。また、隠岐諸島でも生息が確認されている。人為的な環境に生息するとされ、時に海岸近くでも見られるが、山地にはあまり産しない種かもしれない。

存続を脅かす原因

調査が必要だが、平地の草はらの減少などが考えられる。
(執筆: 三島 秀夫)

情報不足 (DD)

チョウ目ヤガ科

ムラサキシタバ

Catocala fraxini (Linnaeus, 1758)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



撮影者(提供者): 松田隆嗣

選定理由

県内での生息地が限られる。

概要

開張90—105mm内外。属*Catocala*のなかで唯一後翅に青紫色の帯を有する。大型種で、国内では最大級のシタバガ。成虫は年に一回、8~10月に出現する。幼虫の寄主植物はヤマナラシおよび栽培種のポプラ。国内では北海道、本州、四国、対馬に分布する。四国、中国地方ではまれ。国外では、東アジアからヨーロッパまで広く分布している。

参考文献

門脇久志・淀江賢一郎・大島 弘 (1992) 島根県で採集された蛾類目録。すかしば, (37/38):1-44.
岸田泰則 (編) (2011) 日本産蛾類標準図鑑2. 学研教育出版. 東京.
松田隆嗣 (2012) ムラサキシタバを島根半島で採集。すかしば, (59):8.
大島 弘 (1994) 琴引山の蛾類。島根県特定地域野生生物緊急調査報告。琴引山の昆虫類:27-29.

県内での生息地域・生息環境

県東部の綱ノ楽山、中部の琴引山、島根半島の3カ所に採集例がある。ただ、島根半島で採集されたものは、山間部からの移動個体だと思われ、本来の生息地とは異なる可能性がある。

存続を脅かす原因

寄主植物であるヤマナラシなどが育つ林の減少。

(執筆者: 三島 秀夫)

情報不足 (DD)

チョウ目ヤガ科

ナマリキシタバ

Catocala columbina yoshikoji Ishizuka, 2002

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



撮影者(提供者): 松田隆嗣

選定理由

生息地が限定され、個体数も多くない。

概要

開張43—53mm程度。後翅が黄色のシタバガ類であり、前翅は鉛色を帯びる。石灰岩地帯や渓谷、海岸などの露岩地に自生するバラ科シモツケ属を寄主植物とする。県内ではイブキシモツケから幼虫が確認されている。日本国内では本州、四国、九州に分布するが分布は局地的である。

参考文献

松田隆嗣 (2012) ナマリキシタバの幼虫を立久恵峡で採集。すかしば, (59):6.
三島秀夫 (2014) 島根県で採集された蛾類について。島根県立三瓶自然館研究報告, (12):19-22
野津幸夫 (2012) ナマリキシタバ島根県にて採集。すかしば, (59):4-5.

県内での生息地域・生息環境

県東部、県西部、隠岐諸島(島後)の海岸で確認されている。いずれの場所も渓谷や海岸の露岩地で、シモツケ属の植物が自生している。

存続を脅かす原因

シモツケ属が自生する露岩地の消失や荒廃。成虫は樹液や花蜜を摂食すると考えられるため、周辺の森林の保全も重要である。

(執筆者: 松田 隆嗣)

情報不足 (DD)

チョウ目ヤガ科

ヨシノキシタバ

Catocala connexa Butler, 1881

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



撮影者(提供者): 能美豪

選定理由

県内での生息地がきわめて限定される。

概要

開張52—58mm内外。前翅はキシタバ類によく見られる樹皮模様が、オスとメスとでは色彩が異なる。オスは暗灰褐色、メスは白色を帯びる。また、前翅がほとんど黒化する個体もある。成虫は夏から10月にかけて見られる。幼虫の寄主植物はブナ。北海道、本州、四国、九州に分布し、おおむねブナの分布と重なる。ただ、いずれの生息地でも多産することはなく、少数が見つかるだけだという。国外では中国に分布。

参考文献

門脇久志・淀江賢一郎・大島 弘 (1992) 島根県で採集された蛾類目録。すかしば, (37/38):1-44.
岸田泰則 (編) (2011) 日本産蛾類標準図鑑2. 学研教育出版. 東京.
能美 豪 (2016) 大万木山の蛾。すかしば, (63):7-9.

県内での生息地域・生息環境

県中部の三瓶山に古い記録が1例あるだけだったが、十年ほど前、大万木山で、1個体採集された。ブナ帯で発生する蛾である。

存続を脅かす原因

ブナを含む森林の減少、消滅。

(執筆者: 三島 秀夫)

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

情報不足 (DD)

チョウ目ヤガ科

ヒメアシブトクチバ

Parallelia dulcia (Butler, 1878)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):三島秀夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生息地が局限される。

概要

開張30mm内外。アシブトクチバ類では最も小型の種類である。翅の地色は茶色、前翅の根元から中央にかけて広い紫灰色部がある。成虫は5~7月と8~9月に出現する。年に2回発生すると考えられるが、幼虫期も含めて生活史の詳細は不明。本州(宮城県付近より南)、四国、九州、対馬に分布するが、局地的で少ない。国外では、朝鮮半島、中国に分布する。

参考文献

門脇久志・淀江賢一郎・大島 弘(1992) 島根県で採集された蛾類目録。すかしば, (37/38):1-44.
岸田泰則(編)(2011) 日本産蛾類標準図鑑2. 学研教育出版. 東京.
松田隆嗣(2017) 松江市で採集されたガ類について(2)。すかしば, (64): 25-30.

県内での生息地域・生息環境

県中部の三瓶山と西部の海岸部にのみ記録があったが、近年、東部松江市でも生息が確認された。県西部からは長く記録が途絶えている。

存続を脅かす原因

調査が必要だが、林の伐採などの環境改変が考えられる。

(執筆:三島 秀夫)

情報不足 (DD)

チョウ目ヤガ科

ヒメネグロケンモン

Colocasia umbrosa (Wileman, 1911)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):三島秀夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内における生息地がきわめて限定され、生息確認記録も少ない。

概要

開張33-35mm。ウスベリケンモン亜科のなかでは小型の種類。翅は全体に濃い褐色。前翅には太くて白い帯が現れる。成虫は4月末~5月と7~8月に出現。年2回の発生と思われる。幼虫の寄主植物は不明。現在までのところ、日本固有種とされ、本州、四国、九州の山地に分布する。北限は東北地方北部という。

参考文献

門脇久志・淀江賢一郎・大島 弘(1992) 島根県で採集された蛾類目録。すかしば, (37/38):1-44.
岸田泰則(編)(2011) 日本産蛾類標準図鑑2. 学研教育出版. 東京.

県内での生息地域・生息環境

県中部の中国山地に近い場所でのみ記録がある。

存続を脅かす原因

調査が必要だが、落葉樹林帯の減少、消滅が考えられる。

(執筆:三島 秀夫)

情報不足 (DD)

チョウ目ヤガ科

ウスズミケンモン

Acrionicta carbonaria (Graeser, 1889 [1890])

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):小山凜斎

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧(NT)



選定理由

全国的に減少が危惧されている。また、県内の生息状況について十分な知見が得られていない。

概要

前翅長20mm前後。前翅は暗灰褐色で、斑紋はやや不明瞭。後翅は大部分が白色で、前縁と翅脈は暗色を帯びる。寄主植物はクヌギ、アベマキ、カシワが知られる。国内では北海道、本州、四国、九州に、国外では朝鮮半島、ロシア南東部に分布する。

参考文献

岸田泰則(編)(2011) 日本産蛾類標準図鑑2. 学研教育出版. 東京.
小山凜斎(2022) 改訂しまねレッドデータブック掲載種の採集記録。すかしば, 69: 24-25.
松田隆嗣(2013) 松江市街地で採集された蛾類の記録。すかしば, 60: 1-16.
四方圭一郎・矢後勝也(2026) ウスズミケンモンとマダラウスズミケンモンは同種の季節型。蝶と蛾, 77(1): 25-34.

県内での生息地域・生息環境

県東部の島根半島で発見されている。県内の生息地の多くは低標高地の二次林で、市街地近くで採集された例もある。

存続を脅かす原因

開発などによる、良好な里山的環境の減少や消失。

(執筆:小山 凜斎)

情報不足 (DD)

チョウ目ヤガ科

ハイロハガタヨトウ

Belosticta cinerea (Butler, 1881)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 大浜祥治

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

県内において、生息地がきわめて限られる。

概要

開張39—45mm。触角は葉片状。前翅は灰褐色で、斑紋はミドリハガタヨトウ*Belosticta extensa* (Butler, 1879)に似ているが、後縁部に外横線にそった白色部分があるのが特徴的である。成虫は年に1回、10~11月に出現するも、成虫で越冬はしない。幼虫の寄主植物はハルニシ、オヒョウ。国内では北海道、本州、九州に、国外では台湾、朝鮮半島、中国、ロシア南東部、サハリン、シベリア東部に分布する。

参考文献

岸田泰則(編)(2011)日本産蛾類標準図鑑2.学研教育出版.東京.
三島秀夫(2007)矢野重明先生採集のヤガ2つ.すかしば,(55):24.
三島秀夫・門脇久志・大浜祥治(2019)隠岐諸島の蛾類(II).すかしば,(66):49-100.

県内での生息地域・生息環境

県東部の奥出雲町付近と隠岐諸島にのみ記録がある。

存続を脅かす原因

雑木林を含む良好な森林環境の衰退。

(執筆者: 三島 秀夫)

情報不足 (DD)

チョウ目ヤガ科

ツクシカラスヨトウ

Callyna contracta Warren, 1913

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 小山凜斉

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

本州における生息地が限定される。また、県内で確認された生息地、個体数もわずかである。

概要

前翅長18mm前後。前翅は褐色で、後縁1/3程度は明るい色調。翅頂部と中央部に明灰褐色の斑紋をもつ。年2化性で、成虫は5~6月、8~9月に出現する。寄主植物はムラサキ科のチシャノキ。国内では本州(中国地方西部)、四国、九州、奄美大島に、国外では中国、ベトナム、ネパール、インドに分布する。

参考文献

岸田泰則(編)(2011)日本産蛾類標準図鑑2.学研教育出版.東京.
三島秀夫(2003)三瓶自然館に収蔵されている鱗翅目:ヤガ科標本について.島根県立三瓶自然館研究報告, 1: 21-28.
小山凜斉(2025)島根県松江市におけるツクシカラスヨトウの記録.すかしば, 71: 25.

県内での生息地域・生息環境

主に、県中西部の山地や里地の森林で生息が確認されている。近年、松江市街地近くの低山地でも発見された。

存続を脅かす原因

寄主植物であるチシャノキを含む林の減少や消失。

(執筆者: 小山 凜斉)

情報不足 (DD)

チョウ目ヤガ科

キスジウスキヨトウ

Archana sparganii (Esper, 1790)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 松田隆嗣

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類(VU)



選定理由

湿地の減少にともない全国的に減少している。島根県では調査が不十分であり、生息状況が不明である。

概要

開張29—44mm。翅の色は全体的に薄い茶色で個体によっては赤褐色を帯び、全体的に黒色鱗片が混ざる。湿地性の蛾で、幼虫はヨシやミクリの茎内に食入する。日本国内では北海道、本州、四国、九州、対馬に分布する。

参考文献

岸田泰則(編)(2011)日本産蛾類標準図鑑2.416pp.学研教育出版.東京.
松田隆嗣(2014)島根県におけるキスジウスキヨトウの記録.すかしば,(61):16.
三島秀夫(2024)島根県で採集された蛾数種について2023.三瓶自然館研究報告,(22): 65-67.

県内での生息地域・生息環境

県東部、県中部、隠岐諸島(島後)。ヨシやミクリが生育する湿地的な環境の周辺で確認されている。

存続を脅かす原因

湿地環境の消失。

(執筆者: 松田 隆嗣)

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

情報不足 (DD)

チョウ目ヤガ科

ギンモンアカヨトウ

Plusilla rosalia Staudinger, 1892

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):(株)ウエスコ

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類(VU)



選定理由

生息地がきわめて限定される。

概要

開張21—28mm。オス、メスとも触角は糸状。前翅の地色は赤紫色で、中央部分は褐色、その外側に銀白色の紋がある。後翅は薄茶色で、薄く小紋とスジが現れる。成虫は4~9月に出現する。低湿地や河川敷、火山性草原などで見られるが、数は多くないという。幼虫の寄主植物はヤナギタデ。国内では、北海道、本州、四国、九州に、国外では、朝鮮半島、中国、ロシア南東部に分布する。

参考文献

岸田泰則(編)(2011)日本産蛾類標準図鑑2.学研教育出版.東京.
淀江賢一郎ほか(1998)島根県斐伊川水系の昆虫類.ホシザキグリーン財団研究報告.(2):7-86.

県内での生息地域・生息環境

県東部の大型河川周辺での採集記録が少数あるのみ。

存続を脅かす原因

湿地および草原環境の衰退、消滅。

(執筆者:三島 秀夫)

情報不足 (DD)

チョウ目ヤガ科

チビウスキヨトウ

Sesamia azumai (Sugi, 1970)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):矢田猛士

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

全国的にも産出が少なく、県内の生息地も限定される。

概要

開張21—23mm。小型のヤガ。前翅は細長く、翅頂がとがる、少し変わった翅形をしている。前翅の地色は灰黄色で中室には黒点がある。後翅はほぼ白色。成虫は年に1回の発生。本土域では4~8月、南西諸島では2月から採集されている。幼虫の寄主植物は未知。本州(島根県、千葉県)、四国(香川県、高知県)、九州(福岡県、鹿児島県)の沿岸部、対馬、屋久島、奄美大島、沖縄島、宮古島、西表島に分布する。国外では、朝鮮半島に分布。

参考文献

岸田泰則(編)(2011)日本産蛾類標準図鑑2.学研教育出版.東京.
三島秀夫(2007)注目すべき島根県のガ数種について.島根県立三瓶自然館研究報告.(5):31-33.
三島秀夫(2020)島根県で採集されたガ数種について.島根県立三瓶自然館研究報告.(18):83-87.

県内での生息地域・生息環境

県内では大田市と美郷町の生息地が知られているだけである。人為的環境で、湿地など水にまつわる場所が生息地なのかもしれない。

存続を脅かす原因

調査が必要である。水辺環境の減少、消失が考えられるか。

(執筆者:三島 秀夫)

情報不足 (DD)

チョウ目ヤガ科

アヤモクメキリガ

Xylena fumosa (Butler, 1878)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):小山凜斎

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

人為的改変を受けやすい低標高地に生息する種である。また、県内の生息状況について十分な知見が得られていない。

概要

前翅長27mm前後。前翅は灰褐色を基調とし、木目模様をもつ。年1化性で、成虫は初冬から翌年の早春に、幼虫は春から初夏にかけて出現する。広食性で、バラ科、マメ科、ナス科、ヒユ科など、さまざまな植物が寄主として記録されている。国内では北海道、本州、四国、九州に、国外では朝鮮半島とロシア南東部に分布する。

参考文献

岸田泰則(編)(2011)日本産蛾類標準図鑑2.学研教育出版.東京.
小山凜斎・佐々木岳(2023)2022年に島根県松江市で採集した冬夜蛾.すかしば.70:7-10.
三島秀夫・大浜祥治(2009)隠岐諸島の蛾類(I).すかしば.(57):45-104.
大畑純二・三島秀夫(2000)三瓶産昆虫標本目録(II).島根県立三瓶自然館収蔵資料目録第5号.

県内での生息地域・生息環境

東部、中部および隠岐西ノ島の平地から低山地で発見されており、県内全域の低標高地に広く生息している可能性がある。県内の生息地の環境は、二次林、湿地、草原などさまざまであるが、いずれの場所でも確認された個体数は少ない。

存続を脅かす原因

開発などによる、良好な里山的環境の減少や消失。

(執筆者:小山 凜斎)

情報不足 (DD)

チョウ目ヤガ科

サヌキキリガ

Elwesia sugii Yoshimoto, 1994

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 小山凜斉

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

国内における生息地が限定される。また、県内の生息状況について十分な知見が得られていない。

概要

前翅長17mm前後。前翅は赤褐色を基調とし、前縁は赤みを帯びた淡黄色、後縁は淡黄色、外縁は波状を呈する。また、各横線および各紋の縁は淡黄色の細線からなる。年1化性で、成虫は11月-12月ごろに出現する。寄主植物を含め、幼虫期はまったく不明である。国内では、本州、四国、九州、対馬に分布するが、生息地はかなり局所的。国外では、台湾と中国に別亜種が分布する。

参考文献

岸田泰則(編)(2011)日本産蛾類標準図鑑2. 学研教育出版. 東京.
小山凜斉・佐々木岳(2022)2021年に島根県松江市で採集した冬夜蛾. すかしば, 69: 57-60.

県内での生息地域・生息環境

これまで本州の日本海側では生息記録が見当たらなかった種であるが、2021年に県東部の低山で発見された。生息地の環境は照葉樹二次林で、県外での発見例からみても、照葉樹林を主な生息環境としているものと考えられる。

存続を脅かす原因

良好な森林環境の減少や消失、特に照葉樹林の荒廃。

(執筆者: 小山 凜斉)

情報不足 (DD)

チョウ目ヤガ科

ムラサキミツボシキリガ

Eupsilia unipuncta Scriba, 1919

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 加藤巧

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



選定理由

県内での生息地が限定され、確認された個体数も少ない。

概要

前翅長19mm前後。前翅は褐色を帯びた赤紫色で、外縁は波状を呈する。また、各横線域に紫灰色の幅広い帯、中室端に小さな白点をもつ。年1化性で、成虫は晩秋から翌年の早春に出現する。幼虫期は未知。国内では本州、四国、九州に分布するが、生息地はやや局所的。国外では中国に分布するとされる。

参考文献

岸田泰則(編)(2011)日本産蛾類標準図鑑2. 学研教育出版. 東京.
三島秀夫(2001)島根県「春の夜蛾・秋の夜蛾」. すかしば, (49): 1-7.
大畑純二・三島秀夫(2000)三瓶産昆虫標本目録(II). 島根県立三瓶自然館収蔵資料目録第5号.

県内での生息地域・生息環境

東部、中部、西部の山地で発見されている。県内の生息地の環境はいずれも落葉樹林。

存続を脅かす原因

良好な森林環境の減少や消失。

(執筆者: 小山 凜斉)

情報不足 (DD)

チョウ目ヤガ科

ミスジキリガ

Jodia sericea (Butler, 1878)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	情報不足 (DD)

撮影者(提供者): 三島秀夫

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

準絶滅危惧(NT)



選定理由

県内での生息地がきわめて限られる。

概要

開張32-35mm。前翅は明るい橙色で、名前のとおり、褐色の横線が薄く3本入っている。後翅は白色、少し橙色を帯びる。成虫は年に1回、10-11月ごろに発生し、成虫のまま越冬、翌年4月ごろまで見られる。幼虫の寄主植物はクヌギ、アラカシ、カシワ。里山の雑木林やカシワ林に生息するが、分布はやや局地的。国内では北海道、本州、四国、九州に、国外では、朝鮮半島、中国、ロシア南東部に分布する。

参考文献

岸田泰則(編)(2011)日本産蛾類標準図鑑2. 学研教育出版. 東京.
小林秀紀(編)(2016)日本の冬夜蛾. むし社. 東京.
三島秀夫(2001)島根県「春の夜蛾・秋の夜蛾」. すかしば, (49): 1-7.

県内での生息地域・生息環境

県内では三瓶山での採集記録が1例あるのみ。

存続を脅かす原因

雑木林、カシワ林などを含む里山的環境の衰退、消失。

(執筆者: 三島 秀夫)

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

情報不足 (DD)

チョウ目ヤガ科

ムラサキハガタヨトウ

Blepharita amica (Treitschke, 1825)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):三島秀夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内での生息地がきわめて限られる。

概要

開張45mm内外。オスの触角は両櫛歯状、メスは糸状。前翅は紫赤色で、斑紋と線とのかなり複雑な模様を形作っている。後翅は淡褐色で無紋。成虫は年に1回、10~11月に出現する。幼虫の寄主植物は、ヨモギ。ヨーロッパでは、各種草本や木本を食べるといふ。北海道、利尻島、本州(中部地方以北および中国地方)に分布する。国外では、朝鮮半島、中国、モンゴル、ロシア極東からヨーロッパにかけての広域分布種。

参考文献

岸田泰則(編)(2011)日本産蛾類標準図鑑2.学研教育出版.東京.
小林秀紀(編)(2016)日本の冬夜蛾.むし社.東京.
大畑純二・三島秀夫(2000)三瓶産昆虫標本目録(II).島根県立三瓶自然館収蔵目録第5号.

県内での生息地域・生息環境

県中部の三瓶山が唯一の生息確認地。

存続を脅かす原因

調査が必要だが、里山的環境の衰退、消失が考えられる。

(執筆:三島 秀夫)

情報不足 (DD)

チョウ目シジミチョウ科

ゴイシシジミ

Taraka hamada (H. Druce, 1875)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	準絶滅危惧 (NT)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):筆谷憲一

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

県内に広く分布しているが著しく減少していると思われる。今後の記録の集積が必要である。

概要

翅長10-16mm。翅の裏が基石を並べているような斑紋がある。幼虫は笹や熊笹などに付くアブラムシを食べて育つ肉食性で、成虫はアブラムシが出す分泌物を吸う。発生地周辺で見られるが、時には何の種かわからないほど激しい飛び方をする。春から初秋に見られるので年2~3回の発生と思われる。

参考文献

淀江賢一郎(1994)ゴイシシジミ解説及び写真。「山陰のチョウたち」p.34.山陰中央新報社.
淀江賢一郎・坂田国嗣・藤原泰樹・山本正志(2006)島根県の蝶類-島根県には何種類の蝶類がいるのか?「新島根の生物」:219-245.日本生物教育会島根大会実行委員会.

県内での生息地域・生息環境

平地、低山地から山間地まで、林周辺、山道脇のササ類のある所で発生する。アブラムシに影響され毎年発生するとは限らず、また、今まで見なかった所で突然発生することもあり、アブラムシを求め移動性があるようで、産地は流動的である。隠岐(島後)には確実な採集記録があったが、その後長く再確認されていない。

存続を脅かす原因

開発改修、自然遷移。

(執筆:淀江 賢一郎)

情報不足 (DD)

チョウ目シジミチョウ科

オオミドリシジミ

Favonius orientalis (Murray, 1875)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):高野英明

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



選定理由

情報が少ないが、まれで衰亡しつつあると思われる。今後の追加データが必要。

概要

翅長19-23mm。ナラガシワやコナラがある低山地で6月頃に発生する。オスの翅表が青緑色をするファボニウスの一群で、午前9時頃から縄張りを張って飛び交う。オスは早朝に山頂で占有行動をとる。メスは不活発で葉陰で休んでいることが多い。ミドリシジミの仲間には似たものが多いが、本種は前翅後翅の裏面に明瞭な短状があるので容易に識別できる。

参考文献

中村泰士(1969)匹見町のミドリシジミ類-付・恐羅漢のウラジャノメについて-。すかしば。(4):3-5.
淀江賢一郎・坂田国嗣・藤原泰樹・山本正志(2006)島根県の蝶類-島根県には何種類の蝶類がいるのか?「新島根の生物」:219-245.日本生物教育会島根大会実行委員会.

県内での生息地域・生息環境

食樹がある周辺の山林や畑が、放置により遷移が進行して環境が悪化している。記録がある安来市や雲南市(旧木次町)でもほとんど見られなくなった。県内での生息実態について調査が待たれる。

存続を脅かす原因

開発や雑木林縁部の荒廃が原因と思われる。

(執筆:淀江 賢一郎)

情報不足 (DD)

ハチ目コマユバチ科

ウマノオバチ

Euurobracon yokahamae (Dalla Torre, 1898)

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

撮影者(提供者):中本南

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧(NT)



選定理由

本州から九州にかけて広く分布する。近年、全国的に観察例が増えていとも言われているが、県内で確認された生息地は限定的で、採集例も少ない。

概要

体長15-25mm程度。産卵管がきわめて長く、体長の10倍近くに達する。体全体は黄赤褐色で、腹部は暗褐色。翅は赤みがかった黄色で、

参考文献

林 成多 (2022) 島根県雲南市におけるウマノオバチの記録. すかしば(69) : 70.
加賀玲子・川島逸郎・刈部治紀 (2018) ウマノオバチ*Euurobracon yokahamae* (Dalla Torre, 1898)(Insecta: Hymenoptera: Braconidae) の生活史. 特にその寄主について. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (47): 59-66.
小山凜音 (2022) 改訂しまねレッドデータブック掲載種の採集記録. すかしば (69) : 24.
三木孝人 (2020) ウマノオバチを松江市で採集. ホシザキグリーン財団研究報告, (23) : 244.

(執筆: 宮永 龍一)

前翅の3個、後翅に1個の黒紋がある。これまで寄主はシロスジカミキリの幼虫とされてきたが、ミヤマカミキリの蛹から羽化した事例が報告されている。

県内での生息地域・生息環境

松江市と雲南市で採集の報告がある。

存続を脅かす原因

森林伐採、植生変化。

情報不足 (DD)

ハチ目アリ科

キバジュズフシアリ

Protanilla izanagi Terayama, 2013

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

No Image

選定理由

全国的にもまれな種であり、県内でも1例しか確認されていない。

概要

体長3mm弱。体色は赤褐色で複眼が無い。触角の鞭節が数珠状であることや、大あごは側方からみて大きく隆起し、大あごの内側に太い剛毛が密生する特異な形態を示す。これまでの採集記録のほとんどは、林内の土壌中から得られている。コロニー数は少なく、十数個体で生活する例が知られている。大あごの特異な形態から特殊化した捕食習性を示すと推測されるが、本種も含め、本属の詳しい生態は不明である。本州の数県から記録されている。

参考文献

緒方一夫 (1988) 島根県見地方のアリ類. 中国昆虫, 2 : 19.
久末 遊・橋爪拓斗 (2023) 長野県から Soil Washing によって採集されたキバジュズフシアリ. ARI 蟻, 44 : 49-52.
寺山 守・久保田敏・江口克之 (2014) 「日本産アリ類図鑑」278pp. 朝倉書店

県内での生息地域・生息環境

県西部の中国山地のブナ林で、地上を徘徊していた個体が採集されている。

存続を脅かす原因

生息地域周辺の開発等による森林の消失や、森林土壌の乾燥などの生息環境の悪化。

(執筆: 福井 修二)

情報不足 (DD)

ハチ目アリ科

ダルマアリ

Discothyrea sauteri Forel, 1912

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団



選定理由

これまで島根県での記録は少ない。

概要

体長2mm。体の全体が赤褐色でずんぐりした形態のアリ。触角先端部がふくらんで長い。頭の一部が前方に突出し大あごは背面からほとんど見えない。腹部の先端は体の下面に大きく湾曲する。照葉樹林内の腐朽した切り株や土中に巣を作る。節足動物の卵に特殊化した食性をしめし、クモ類やムカデ類の卵を摂食することが知られている。コロニーサイズは小さく、平均50個体程度の働きアリと1~数個体の女王アリでコロニーが構成される。本州、四国、九州、南西諸島に分布し、海外では台湾の記録がある。

参考文献

林 成多 (2017) 島根県産アリ科生態写真集. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, 20: 1-98.
寺山 守・久保田敏・江口克之 (2014) 「日本産アリ類図鑑」278pp. 朝倉書店

県内での生息地域・生息環境

県東部および西部の低地の照葉樹林や、大径木の多い二次林の林床から採集されている。

存続を脅かす原因

本種生息域の開発、森林伐採による生息環境の消失・劣化。

(執筆: 福井 修二)

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

情報不足 (DD)

ハチ目アナバチ科

フクイアナバチ

Sphex inusitatus fukuianus Tsuneki, 1957

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



撮影者 (提供者): 皆木宏明

選定理由

既知の生息地が限定的で、生息環境も人為的影響を受けやすい。

概要

体長30–35mm。体色は全身黒色で、翅も暗褐色。成虫は夏季に出現し、草のまばらな山道や更地、人家の庭などの平坦な裸地に単独で穴を掘って営巣し、ときにまとまったコロニーを形成する。幼虫の餌としてもっぱら森林性のハネナシコロギス (バッタ目コロギス科) を獲物とするため、営巣地の周辺には森林環境が存在することも生息条件となる。国内では本州、四国、九州に分布するが、いずれの地域も生息地は限定的である。

参考文献

皆木宏明 (2007) 島根県初記録となるフクイアナバチ (ハチ目: アナバチ科) について. 島根県立三瓶自然館研究報告 No.5: 25-26
皆木宏明 (2020) 2006年に島根県で確認されたフクイアナバチ (ハチ目アナバチ科) 営巣地のその後の状況. 島根県立三瓶自然館研究報告 No.18: 125-127.
野津幸夫・野津雅陽 (2024) フクイアナバチを松江市・枕木山で採集. すかしば(71): 57
寺山 守・須田博久編 (2016) 日本産有刺ハチ類図鑑. 東海大学出版部. 722pp.

県内での生息地域・生息環境

県東部と中部の山間地で生息が確認され、県中部では集団営巣地も確認されている。

存続を脅かす原因

森林に隣接した営巣に適した裸地の消失。

(執筆者: 皆木 宏明)